

日本生物物理学会・第 59 回学会実施報告書

第 59 回年会実行委員会

報告書取りまとめ 東北大学・高橋 聡

最終版 2022 年 3 月提出

- (1) はじめに
- (2) 実行委員会メンバー
- (3) 開催の概要
- (4) 活動日程
- (5) 参加登録数、演題登録数、参加者数
- (6) 決算報告（暫定版）
- (7) 協賛報告
- (8) プログラム委員報告
- (9) Confit 監修係報告
- (10) 会場と仕事のアレンジ係（会場係）報告
- (11) 懇親会係報告
- (12) oVice デザイン係報告
- (13) スタンプラリー係報告
- (14) SNS 係報告
- (15) 学生アルバイト係報告
- (16) 高校生・高専生 生物物理ワークショップ 係報告
- (17) 閉会式係報告
- (18) シンポジウム・サテライトシンポジウム開催報告
- (19) 第 59 回年会参加者アンケート結果のまとめ
- (20) 添付資料

添付 10-1 : 第 59 回日本生物物理学会シンポジウムアルバイトマニュアル最終版(1122)

添付 10-2 : 第 59 回日本生物物理学会一般口頭アルバイトマニュアル最終版(1122)

添付 11-1 : 添付 11-1 : 若手奨励賞授賞式・懇親会進行表進行表

添付 11-2 : 懇親会セットチラシ・注文表

添付 14-1 : Twitter: @59bsj2021 (113 フォロー中、150 フォロワー) のツイートアクティビティ

添付 15-1 : 生物物理バイト募集チラシ (仙台年会)

添付 15-2 : アルバイト学生情報

(1) はじめに

日本生物物理学会第 59 回年会は、2021 年 11 月 25 日から 27 日までオンライン形式で開催された。本年会は、当初は仙台国際センターでの開催を目指していたが、コロナ拡大に対応するため、同年 4 月末にオンライン開催に切り替えた。年会実行委員会では、オンライン開催ではあっても i) 研究者同士の議論や出会いを減らさない、ii) 協賛企業と研究者の交流の機会を維持する、iii) 本学会らしい形式張らない雰囲気を失わない、などを目標に準備を進めた。我々の努力の成果は「頑張ったけれどもオンラインの限界はあった」とまとめるべきかもしれない。トラブルも多く生じた。ただ、議論が中断するような事態は起きなかったこと、参加者アンケートの結果は概ね好評だったことなどに、実行委員会としてはほっとしている。本報告書は、今後の年会運営の参考のために、本実行委員会の活動と成果、反省点などをまとめたものである。

本年会の実施においてお世話になった多くの方々や団体にお礼を申し上げたい。特に、シンポジウム、共催シンポジウムやサテライトシンポジウムを企画くださった皆さん、オンライン開催でも辛抱強く協賛いただいた企業の皆さん、学会準備を共に進めてくださった学会理事会、AE 企画、中西印刷の皆さん、多くのアドバイスいただいた仙台地区の高校教員の皆さん、高校生・高専生向け WS の講師の皆さんにお礼を申し上げたい。東北大学多元物質科学研究所には、会議室とネットワークを使用させていただいた。東北大学生命科学研究科にもご協力をいただいた。最後に、トラブルがあっても臨機応変に対応いただき、おおらかに議論を盛り上げてくださった全ての年会参加者の皆さんに、心からお礼を申し上げたい。

第 59 回年会実行委員会 実行委員長・高橋 聡

(2) 実行委員会メンバー

年会長・実行委員長	高橋 聡 (東北大学)
会計・会場	中林 孝和 (東北大学)
プログラム	田中 良和 (東北大学)、梅津 光央 (東北大学)、鎌形 清人 (東北大学) 羽鳥 晋由 (山形大学)、藤原 孝彰 (東北大学)、真壁 幸樹 (山形大学) 横山 武司 (東北大学)
Confit 監修	稲葉 謙次 (東北大学)
懇親会	南後 恵理子 (東北大学)、真壁 幸樹 (山形大学)、中村 修一 (東北大学) 西 羽美 (東北大学)、鎌形 清人 (東北大学)
oVice デザイン	西 羽美 (東北大学)、鎌形 清人 (東北大学)
スタンプラリー	鎌形 清人 (東北大学)、西 羽美 (東北大学)
SNS	松井 敏高 (東北大学)、吉留 崇 (東北大学)、横山 武司 (東北大学)
高校生・高専生向け WS	鳥谷部祥一 (東北大学)、柴田 穰 (東北大学)、羽鳥 晋由 (山形大学) 元池 育子 (東北大学)、最上 譲二 (東北大学)
高校生・高専生発表	盛田 伸一 (東北大学)
参加登録サイト監修	城田 松之 (東北大学)、最上 譲二 (東北大学)
学生アルバイト手配	権田 幸祐 (東北大学)、柴田 穰 (東北大学)
閉会式	森本 展行 (東北大学)、最上 譲二 (東北大学)、渡部 聡 (東北大学)
実行委員	今井 正幸 (東北大学)、小井川 浩之 (東北大学)、大場 哲彦 (東北大学) 木下 賢吾 (東北大学)、佐々木 一夫 (東北大学) 野村 M 慎一郎 (東北大学)、宮田 英威 (東北大学)
Web サイトデザイン	林 久美子 (東北大学)

(3) 開催の概要

2017 年秋に仙台地区での年会実施を依頼され、準備をスタートした。実行委員会を東北大学と山形大学の学会員を中心に組織し、会場候補として仙台国際センターと東北大学川内キャンパスを仮予約した。コロナ前の 2019 年秋に会場をどちらにするか真剣な議論を持ち、キャンパス開催の方が予算的に均衡はしていたが、赤字として予想された 400 万円を獲得する覚悟を決め、国際センターを選択した。

開催日程として、本学会が過去にしばしば開催された 11 月第三週を選んだ。最終日が土曜日であることについて計画時は問題意識を全く持たなかったが、学会三日目の参加者数は他の開催日の 2/3 に減った。これは反省点であり、特にオンラインの場合は週末の開催は避けた方がよいと思われる。

2020 年からコロナの感染拡大が始まった。59 回年会は対面の開催にこだわり、ぎりぎりまで判断を遅らせたが、2021 年 4 月末の時点でオンライン開催に切り替えた。オンラインでもいくつかの形式が考えられる。第一は Zoom のホストを実行委員が務める形式であり、委員個人のパソコンとネットワーク環境を用いることで安価になる。第二は、大学のネットワークを利用し、大学内の会議室にホスト用のレンタルパソコンを設置し、アルバイトが Zoom をコントロールする形式である。第三は大学外に会場を借りネットワークも構築する形式であり、最も経費がかかる。東北大学多元物質研究所が学会によるネットワーク利用等を認めていたことから、第二の選択肢での開催を決定した。仮に第三の形式を選んでいたら、年会収支は赤字だった可能性が高い。会議室利用もコロナ状況下で流動的であり、11 月に感染が下火だったことに助けられた。

オンライン開催を前提に、ゴールデンウィーク後に年会の発表スタイルを決定し準備を急いだ。一般発表はすべて Zoom を使った口頭発表とした。英語発表の負担感を減らすために、各自が投稿したビデオを順に再生し、質疑をリアルに実施することにした。Confit を採用し、動画は Confit 上で視聴可能とした。シンポジウムはリアルタイム開催としたが、録画に同意いただいたシンポジウムについてもビデオ視聴を可能とした。講演やシンポジウムがビデオで確認できたことは、多くの参加者に好評だった。一方で、動画の質が悪かった場合があったこと、Zoom 音声のトラブルがあったことなどの問題も生じた。今回の発表形式はよかったとの評価は多かったが、英語での議論の質が悪かったことに対する意見も多く寄せられた。

PDBj からの依頼で「サテライトシンポジウム」を新しく企画した。これは、共催シンポジウムと同じ開催費用をいただくことで、関連団体による学会前日の会場の使用を認めるものである。また、参加登録のない方に対してもサテライトのみの参加を認めた。サテライトは、学会開催の新しい収入源として今後も継続してよいのではないかとと思われる。

第 58 回年会に続き、高校生の発表を認めることにした。また、高専生（本科 1~3 年生）にも同じ立場での発表を認めることにした。残念ながら高校生・高専生共に本年会での発表申し込みはなかったが、今後も高校生や高専生の発表のチャンネルを残した方がよいと思われる。一方で、仙台地区の高校の先生方のご意見を伺い、市民講演会のスタイルを変えた「高校生向け WS」を学会前々日に開催した。これは参加した高校生から大変好評であり、今後も継続してほしいと願っている。

年会の参加登録は中西印刷の参加登録システムを利用し、集めた情報を Confit に移行させた。実行委員会のなかでチームを作り、参加登録システムの英語の訂正や設問の変更などを徹底的に行なったつもりだったが、海外参加者の登録ができないというトラブルが生じた。これは、トラブルに気づいたシンポジウム企画者などの機転により個別に対応いただくことになってしまった。

海外在住の外国人研究者の参加と発表の資格について、年会ウェブサイトに掲載した情報が古かったことは大きな反省点である。年会ウェブサイトでは、昨年までのウェブサイト情報をそのままコピーし、オーストラリア生物物理学会のみが海外の関連学会として学会員と同じ参加料金として参加できると記載した。一方で、本来の規定では海外からの参加者はすべて学会員と同じ扱いであり、参加登録サイトにログインすれ

ば海外からの参加者はすべて学会員と同じ扱いで参加できると記載されていた。年会ウェブサイトの情報だけを読んで参加を取りやめた海外研究者もおられたかもしれない。この点について、心からお詫びを申し上げます。

年会に関する情報は、学会準備期間の間は年会ウェブサイトと学会員に対するメール配信により行った。年会ウェブサイトには、協賛企業のための情報集約ページも作成した。Twitter サイトも開設し情報発信した。オンライン開催のプラットフォームとして Confit を採用し、デザインの工夫を行なった。しかし、ウェブサイト、Confit サイト、Twitter、さらに、下に説明する oVice サイトが併設され、参加者の混乱を招いた部分があった。どこにどの情報があるのかわかりにくいという意見もあった。動画の投稿方法などの重要な情報の連絡が遅れがちであったことも反省点である。

oVice を使ってオンライン懇親会を企画した。宮城県の地酒やつまみなどの懇親会セットの販売を仲介した。懇親会の参加者は予想よりもやや少なかったが、盛況だった。さらに、準備の過程で oVice の利便性に気づき、参加者同士が雑談できる oVice 談話室や、同窓会やシンポジウムの二次会などで利用できる会議室などを開設した。これらはよい試みだったと思われるが、周知不足などにより十分に活用されたとは言えなかった。oVice はポテンシャルのあるシステムであり、将来のオンライン学会において、oVice 内に擬似的な学会会場を作りシンポジウムやポスターを開催するなどの利用が可能と思われる。

協賛企業の募集を例年通りおこなった。また、幕間広告、バイオフィジクスセミナーなどの募集も例年通りおこなった。しかし、企業協賛は多くは集められなかった。oVice 談話室内に企業の展示ブースを設置し、参加者と企業の交流の場を設定した。スタンプラリーも実施し、企業ブース訪問者やバイオフィジクスセミナーの参加者に抽選で景品を贈ることにした。これらは一定の成果を挙げたと思われるが、企業ブースの参加者が十分に多かったとは言えなかった。

東北大学多元物質科学研究所の会議室にネットワーク拠点を構築し、専門業者にレンタルパソコン 20 台の設置とネットワーク接続を担っていただいた。学会当日は、それらのパソコンを学生アルバイトに操作いただき、Zoom のホスト、ビデオの再生、質疑などを進めた。ネットワーク接続容量は 1Gbps だったが 16 回線の Zoom の接続に十分余裕があった。口頭発表の Chairman は、セッションにて発表を行う研究室の指導者などを中心に、プログラム委員が選考した。しかし、口頭発表の Chairman と学生発表賞の審査員がバッティングしたと伺った。アルバイト学生の教育に努めたが、学生たちは大変よくホスト役を努めていただいた。

学会の最後に閉会式を企画し、仙台国際センターからライブ中継を行った。来年度の年会長である金城さんにサプライズ出演をいただいた。（文責・高橋聡）

(4) 活動日程

2/10	年会 Web ページ公開、シンポジウム公募開始 展示、広告、バイオフィジックセミナー、その他協賛募集開始
3/12	シンポジウム公募締切（4/9 まで延長）
4/28	仙台国際センターでの開催をあきらめオンライン開催を決定 シンポジウム採択通知送付
6/11	参加・演題システムテスト開始・中西印刷との調整
6/25	参加・演題登録受付システムの最終調整期間終了／完成
6/28	演題登録受付開始 参加登録受付開始
7/30	演題情報登録締切（8/6 まで延長）・プログラム編成開始
8/26	プログラム編成終了、編成データを中西印刷に入稿
9/24	懇親会セット販売開始
9/30	前期参加登録受付締切／前期参加諸費用送金受入締切
10/1	後期参加登録受付開始・一般口頭演題の投稿方法の開示
10/8	予稿集最終調整・校了（年会校様⇔中西印刷 楠林）
10/15	プログラム公開（PDF・サイト上）・アプリ/Confit 製作用データ提出
10/26	予稿集オンライン公開（事務局）
10/25	一般口頭発表演題アップロード開始
11/1	オンライン接続現地テスト
11/2	プログラム集の一斉発送（会員宛て：事務局／非会員宛て：サポートデスク）
11/9	後期参加登録受付締切／後期参加諸費用送金受入締切
11/11	企業向けスタンプラリー説明会
11/12	高校生向け生物物理 WS の参加申し込み締め切り・懇親会セットの申し込み締め切り 発表動画の登録締め切り
11/16	年会登録者へのログイン名・パスワードの送付・oVice 懇親会のリハーサル
11/17	Confit へのログイン開始（動画視聴可）、oVice 会議室の予約開始
11/19	アルバイト学生業務説明会
11/22	懇親会セット送付
11/23	高校生・高専生 WS、oVice オープン
11/24	サテライトシンポジウム
11/25	第 59 回年会 1 日目
11/26	第 59 回年会 2 日目 懇親会
11/27	第 59 回年会 3 日目 閉会式
12/10	Confit の停止

(5) 参加登録数、演題登録数、参加者数

参加登録数

会員種別	前期価格	後期価格
一般会員	467	109
学生会員(院生)	356	7
学生会員(学部学生:発表あり)	22	0
学生会員(学部学生:発表なし)	13	7
高校生・引率教員	1	0
名誉会員	4	1
シニア会員	8	6
非会員(一般)	23	20
非会員(院生)	40	8
非会員(シンポジウム発表者)	68	0
非会員(学部学生:発表なし)	24	40
非会員(関係学会等※)	9	2
非会員(関係学会等の院生※)	5	2
計	1,040	202
合計	1,242	

※: 日本物理学会正会員、日本顕微鏡学会正会員、オーストラリア生物物理学会会員、海外研究機関在籍者

演題登録数

一般演題 627 件, シンポジウム 148 件 (+ 一般演題からのピックアップ 14 件) = 162 件

計 789 演題。

参加者数 (概数)

	合計	Ch01	Ch02	Ch03	Ch04	Ch05	Ch06	Ch07	Ch08	Ch09	Ch10	Ch11	Ch12	Ch13	Ch14	Ch15	Ch16
25日午前	509	100	55	49	25	150	70	60									
25日昼	149	60	25	64													
25日午後I	622	57	33	45	40	40	32	60	25	46	43	57	19	20	35	46	24
25日午後II	563		47	60	110	110	50	60	80				46				
26日午前	501	79	60	85	89	40	70	78									
26日昼	212	212															
26日午後I	662	50	40	60	39	40	30	64	45	20	40	40	45	39	34	26	50
26日午後II	575	27	30	28	45	30	40	41	40	25	49	40	55	19	31	35	40
懇親会	150																
27日午前	343	35	40	33	85	70	80										
27日昼	100	55	45														
27日午後I	415	40	25	48	25	20	50	20	40	30	27	30	30	15	15		
閉会式	210																

(6) 決算報告

担当者：目黒 靖 (AE 企画)

第59回日本生物物理学会年会 (オンライン開催) 収支決算 (案)

〔収入の部〕

項目		内容	単価	数量	合計	備考
1. 参加費	事前	一般会員	10,000	467	4,670,000	
		学生・シニア会員	2,000	364	728,000	
		学生会員 (学部生：発表あり)	2,000	22	44,000	
		非会員 (一般)	13,000	23	299,000	
		非会員 (院生)	3,500	40	140,000	
		非会員 (院生：関連学会、海外)	2,000	5	10,000	
		非会員 (一般：関連学会、海外)	10,000	9	90,000	
		事前有料 計		930	5,981,000	
		シンポジウム講演者 (非会員)	0	66	0	
		学生会員 (学部生)	0	13	0	
		非会員 (学部学生)	0	24	0	
		高校生・大学生 (本科1-3年生) - 引率数	0	1	0	
		名誉会員	0	5	0	
				1,039		
	後期	正会員	12,000	122	1,464,000	
		学生・シニア会員	3,500	13	45,500	
		一般 非会員	15,000	24	360,000	
		学生 非会員	5,000	8	40,000	
		一般 関連学会・海外	12,000	2	24,000	
		学生 関連学会・海外	3,500	2	7,000	
		当日有料 計		171	1,940,500	
		学生会員 (学部生)	0	7	0	
		非会員 (学部学生)	0	40	0	
				218		
		カード決済手数料 他			-318,549	
		計		1,257	7,602,951	
2. 展示料	展示	Aタイプ	165,000	6	990,000	
		Bタイプ	88,000	2	176,000	
		計		8	1,166,000	
3. プログラム集広告料	広告	表4 (年間契約)	231,000	1	231,000	
		表2 (年間契約)	176,000	1	176,000	
		後付	66,000	8	528,000	
		後付 (年間契約)	64,900	2	129,800	
		後付 1/2頁	44,000	1	44,000	
		計			1,108,800	
4. BPセミナー			275,000	4	1,100,000	
		計			1,100,000	
5. シンポジウム共催費		シンポジウム	120,000	10	1,200,000	
		サテライトシンポジウム	210,000	1	210,000	
		計			1,410,000	
6. シンポジウム開始前広告			55,000	4	220,000	
		計			220,000	
7. 年会Webバナー広告			110,000	6	660,000	
		計			660,000	
8. オンデマンド配信			165,000	2	330,000	
		計			330,000	
9. 雑収入					2	
		計			2	
小計					13,597,753	

収入合計 13,597,753

〔支出の部〕

項目		単価	数量	合計	備考
1. 事前登録業務関連費用					
	年会諸費用入金管理 (問い合わせ窓口設置含)	528,000	1 式	528,000	
	参加登録データ作成	16,500	1 式	16,500	
	会員資格確認	82,500	1 式	82,500	
	非会員・学部学生対応費	122,100	1 式	122,100	
	計			749,100	
2. プログラム予稿集作成費					
	プログラム集広告頁印刷費	11,220	11 頁	123,420	
	プロシーディングス部分等組版作業費	3,300	355 頁	1,171,500	
	Confit用提出データ	55,000	1 式	55,000	
	計			1,349,920	
3. 人件費					
	アルバイト代 (当日運営)		1 式	600,000	28名分
	計			600,000	
4. 年会運営費	<準備費>				
	Web制作・サーバー管理		1 式	990,000	
	プログラム集前付製作	5,500	35 頁	192,500	
	シンポジウムプログラムデータ作成・校正	3,300	30 頁	99,000	
	シンポジウム演者情報とりまとめ	55,000	1 式	55,000	
	共催シンポジウム関係取りまとめ	165,000	1 式	165,000	
	座長とりまとめ	110,000	1 式	110,000	
	カード決済システム使用料、対応費	110,000	1 式	110,000	
	領収書・請求書・参加証明書の発行	110,000	1 式	110,000	
	Confit入稿データ作成	55,000	1 式	55,000	
	Confit修正費	55,000	1 式	55,000	
	Confit発表動画確認督促等対応	55,000	1 式	55,000	
	サテライトシンポジウム対応費	55,000	1 式	55,000	
	交通費 会場下見 (実費)	71,790	1 式	71,790	
	<当日運営費>				
	統括者	49,500	1名×4日	198,000	
	本部携帯電話	11,000	1 台	11,000	
	交通費 (実費)	39,840	1 名	39,840	
	宿泊費	10,000	3 泊	30,000	
	<持込機材>				
	PC	33,000	20 台	660,000	
	ヘッドセットマイク	1,650	20 台	33,000	
	線材費 (ケーブル等)	6,600	20 式	132,000	
	ストップウォッチ	550	17 式	9,350	
	設営・撤去費	110,000	2 式	220,000	
	運搬費	38,500	2 式	77,000	
	諸経費	33,000	1 式	33,000	
	保守管理費 (インターネット)	33,000	1名×4日	132,000	
	<業務委託関係>				
	決算書作成 (請求書とりまとめ、振込等)	165,000	1 式	165,000	
	業務委託費	1,100,000	1 式	1,100,000	
	計			4,963,480	
5. 協賛関係諸経費					
	協賛募集パンフレット制作費	110,000	1 式	110,000	
	協賛関係問い合わせ事務、発送費	220,000	1 式	220,000	
	オンライン展示Webレイアウト費	27,500	8 式	220,000	
	オンライン展示登録システム費	55,000	1 式	55,000	
	オンデマンドセミナー変換、アップロード費	55,000	1 式	55,000	
	幕間動画費		1 式	55,000	
	展示会・共催企業対応当日スタッフ費	44,000	1名×3日	132,000	
	スタンプラリー景品 (地酒)		1 式	30,370	
	スタンプラリー景品 (モバイルマイクロスコープ)		1 式	49,126	

	<エーイー企画委託手数料>			
	展示会分委託費	1,166,000	5 %	58,300
	BPセミナー委託費	1,100,000	5 %	55,000
	オンデマンド配信	330,000	5 %	16,500
	幕間広告	220,000	5 %	11,000
	HPバナー広告	660,000	5 %	33,000
	広告関係委託費	1,108,800	30 %	332,640
	計			1,432,936
6.ケータリング費	お弁当代 (11/25)		1 式	29,700
	お弁当代 (11/26)		1 式	34,080
	お弁当代 (11/27)		1 式	20,400
	コーヒ-、軽食		1 式	32,500
	計			116,680
7.高校生ワークショップ	ポスター (200枚)		1 式	7,392
	タックシール		1 式	660
	送料		1 式	25,760
	高校生ワークショップ講師謝金	20,000	3 名	60,000
	計			93,812
8.Confit	利用料	528,000	1 式	528,000
	参加者個別認識機能	550,000	1 式	550,000
	"	-110,000	1 式	-110,000
	発表動画アップロード・公開機能	770,000	1 式	770,000
	計			1,738,000
9.ZOOM関連	ZOOMビジネス(2月)	5,940	17 S	100,980
	ZOOMウェビナー(2月)	100,540	1 S	100,540
	Cloud 録画 (100GB) (2月)	11,770	1 S	11,770
	ZOOM契約、設定、管理、保守	330,000	1 式	330,000
	BlueSky Timer		1 式	13,900
	計			557,190
10.懇親会関係費	oVice利用費	66,000	1 式	66,000
	お酒シール	670	1 式	670
	計			66,670
11.閉会式関係	Wi-Fiルーター	3,360	1 式	3,360
	次期年会長 交通費	30,200	1 式	30,200
	計			33,560
12.消耗品	衛生・消毒用品、お菓子	6,468	1 式	6,468
	お菓子	1,822	1 式	1,822
	計			8,290
12.事後処理費	大会旗用ベナント		1 式	19,800
	計			19,800
13.雑支出	振込手数料		1 式	5,000
	計			5,000
小計				11,734,438

支出合計 11,734,438

収支差額 1,863,315

・オンライン年会の場合、年会の収入の多くの部分を占める企業協賛収入（とりわけ展示収入）が得られないことにより、通常エーイー企画が行っている当日運営などを、実行委員会が行わざるを得ない状況になった。オンライン年会では、展示収入が減る分会場費などの支出も減ることになるが、収入減と支出減を差し引いても収入減の影響が大きいと言わざるを得ない。

・一方で、コロナ感染がなく現地開催ができたとしても、仙台国際センターでの開催であればコロナ前の従来の協賛数を大幅に上回る収入（400 万円）を得る努力が必要な状況だった。

(7) 第 59 回日本生物物理協賛報告書

担当者：衛藤匡（AE 企画）

◆バイオフィジックスセミナー（BP セミナー）

参加者が 15-40 名程度で全体的に低迷な参加者であった。

オンラインで開催する際は今後、参加者へ対しての周知の方法等を検討するべきと感じた。このまま人数が少なければ BP セミナーへの協賛企業が減る可能性が大きいと思われる。

◆バナー広告 11/18-12-3

年会 HP オンライン展示会クリック数：クリック数 92（ユニーク数 72）

参加者専用 HP オンライン展示会：クリック数 134（ユニーク数 122）

大会 HP（企業バナー）総合計：クリック数 42（ユニーク数 41）

参加者専用 HP：企業バナー総合計：クリック数 96

決して高い数字では無いが、協賛のメニューとしてオンライン・オンサイトどちらにしても残しておいてよいメニューかと感じられた。

◆オンライン展示会

カタログダウンロード:平均 5.6 ダウンロード

かなり厳しい状況

また、Zoom での面談も厳しい数字である。

◆スタンプラリー応募者：oVice ブース立ち寄り延べ人数：179（平均 25 名程度）

BP セミナーよりスタンプラリーに延べ参加人数：26（平均 6.5 名程度）

オンライン展示会のサポートメニューとして、高橋先生方の方案により本大会にてシステムを構築していただいた。今後、参加者が oVice になれて、通常化すれば、非常に面白いツールとして期待が持てる。例えば meet the experts など。

同時に画面共有が行われた場合に耐えうるキャパがあれば、ポスターセッションで利用可能性はあるのではないかとぜひ、検証してみたいところではある。

(8) 生物物理学会第 59 回年会 実行委員会 プログラム委員報告

担当者：○ 田中良和（東北大学）、梅津光央（東北大学）、真壁幸樹（山形大学）、
羽鳥 晋由（山形大学）、鎌形清人（東北大学）、藤原孝彰（東北大学）、横山武司（東北大学）

1) 活動の記録

- 2 月に公募シンポジウムを公募した。締め切りは 3 月 12 日に設定した。
- 公募シンポジウムを 4 月 9 日まで延期し、新学術領域研究、学術変革領域 (A)、学術変革領域 (B)、JST CREST、JST さきがけの領域代表に、シンポジウムへの応募を依頼した。3 月 12 日までに申し込みのあった公募シンポジウムについては、3 月 12 日に実行委員会で採否をメール審議した。
- 4 月 9 日までに申し込みのあった公募シンポジウムについて、4 月 9 日に実行委員会で採否をメール審議した。
- 4 月下旬の実行委員会にて、一般演題の発表様式を以下の通りに決定した。
 - (1) 一般演題はすべて口頭発表にする。
 - (2) 演者に事前録画したムービーを提出してもらい、当日は、「では、***さんの発表です」と座長が紹介した後に、そのムービーを再生する。
 - (3) 配信後に ZOOM にてリアルタイムで質疑応答を行う。
 - (4) 発表のムービーは、発表時間よりも前から PW 付きで公開し、会期が終わってからも数週間は PW 付きで視聴できるようにする。
- 6 月上旬に、プログラム委員を組織した。多岐にわたる一般演題の内容をカバーできるよう、実行委員の中からできるだけ広い分野の先生に参画いただいた。
- 7 月上旬に、AE 企画と相談して、シンポジウム、一般演題、ランチョンセミナー、懇親会などのコマ割りを決めた。
- 8 月 11 日に一般演題を締め切った。
- 8 月 12 日にプログラム委員会を開き、各委員が担当する発表分類を決め、作業スケジュールを共有した。
- 8 月 18 日に一般演題のリストが届いた。各委員に以下のプログラム編集作業を依頼した（締め切りは 8 月 23 日）。
 - 《1. 演題の各セッションへの割り振り》《2. セッションタイトルの決定》《3. セッション日時、場所の記入》《4. 演題番号の決定》《5. 座長の選出》この作業が一番大変だった。
- 8 月 23 日にプログラム案を完成させた。
- 8 月 24 日に生物物理学会若手担当理事の今田先生にプログラム案を確認いただき、コマの入れ替えなどの作業を行った。8 月 26 日にプログラム案が完成した。
- 9 月 1 日に、座長候補の先生に、AE 企画から座長のお願いのメールを送付していただいた。プログラム委員の先生に推薦いただいた 3 名の座長のうち、初めに、2 名にお願いした。断られた場合には、別の先生に依頼した。最終的に、9 月 14 日に全てのセッションの座長が決まった。座長を推薦してお願いする作業もかなり大変だった。
- 9 月 7 日に中西印刷にシンポジウム、一般公演の印刷用のデータを送付した。
- 中西印刷とプログラム・抄録・索引の修正を繰り返し、10 月 19 日に完成した。

2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

- 最終的な演題数は、一般講演 627 件、シンポジウム 148 件 (+一般演題からのピックアップ 14 件) = 162 件、高校生 0 件、合計 789 件だった。
- 一般演題を募集する際は、以下の A~T の分類で募集した。

- A. Protein General 蛋白質:機能・構造・物性・計測・工学 : (172 演題、うち若手 40 演題)
- B. Heme-, Membrane- & nucleic acid binding-protein ヘム蛋白質・膜蛋白質・核酸結合蛋白質 : (31 演題、うち若手 11 演題)
- C. Nucleic acid 核酸:構造・物性・相互作用・複合体 : (28 演題、うち若手 9 演題)
- E. Water, Hydration & Electrolyte 水・水和・電解質 : (12 演題、うち若手 3 演題)
- F. Molecular genetics & Development 分子遺伝・遺伝情報・制御・発生・分化 : (8 演題、うち若手 2 演題)
- G. Muscle & Molecular motor 筋肉・分子モーター : (47 演題、うち若手 11 演題)
- H. Cell biology 細胞生物学的課題(接着,運動,骨格,伝達,膜) : (60 演題、うち若手 10 演題)
- I. Biological & Artificial membrane 生体膜・人工膜 : (38 演題、うち若手 5 演題)
- J. Chemoreception,Neuroscience & Sensory systems 化学受容・神経 : (5 演題、うち若手 4 演題)
- K. Neuronal circuit & Information processing 神経回路・脳の情報処理 : (10 演題、うち若手 1 演題)
- L. Behavior 行動 : (5 演題、うち若手 1 演題)
- M. Photobiology 光生物:視覚・光受容・光合成・光制御 : (64 演題、うち若手 19 演題)
- N. Radiobiology & Active oxygen 放射線生物・活性酸素 : (2 演題、うち若手 0 演題)
- O. Origin of life & Evolution 生命の起源・進化 : (11 演題、うち若手 6 演題)
- P. Genome biology & Bioinformatics ゲノム生物学・生命情報科学: ゲノミクス・分子進化 : (24 演題、うち若手 1 演題)
- Q. Ecology & Environment 生態・環境 : (1 演題、うち若手 0 演題)
- R. Mathematical biology, Nonequilibrium state & Biological rhythm 数理生物学・非平衡・生体リズム : (29 演題、うち若手 5 演題)
- S. Measurements & Bioimaging 計測・バイオイメージング : (71 演題、うち若手 16 演題)
- T. Bioengineering, Crystal growth & Crystallization technique バイオエンジニアリング・結晶成長・結晶化技術 : (10 演題、うち若手 6 演題)

しかし、最終的には、演題名をもとに、応募時の分類を以下のようにさらに細かく分類した。600 以上の演題を、演題名を見ながらさらに細かく分類する作業は非常に煩雑だった。これを回避するために、応募の時点で細かく分類しておいたほうが良いと思う。例えば、「タンパク質」だけでなく、「タンパク質：一般」「タンパク質：設計」「タンパク質：構造」「タンパク質：計算」「タンパク質：計測」のように、細かく分類しておけば、あとで分類する必要がないため、作業が軽減できると思う。

- ◇ タンパク質：一般 I~VII
- ◇ タンパク質：設計 I~II
- ◇ タンパク質：構造 I~III
- ◇ タンパク質：計算 I~IV

- ◇ タンパク質：計測 I～II
- ◇ ヘム蛋白質・膜蛋白質・核酸結合蛋白質：構造 I～III
- ◇ ヘム蛋白質・膜蛋白質・核酸結合蛋白質：機能と反応場 I～III
- ◇ ヘム蛋白質・膜蛋白質・核酸結合蛋白質：動態 I～II
- ◇ 核酸 I～III
- ◇ 水・水和・電解質
- ◇ 筋肉・分子モーター I～V
- ◇ 細胞生物：膜
- ◇ 細胞生物 I～III
- ◇ 細胞生物 骨格 I/II
- ◇ 細胞生物：分子モーター
- ◇ 細胞生物：計測・イメージング
- ◇ 生体膜・人工膜 I～IV
- ◇ 神経回路
- ◇ 化学受容
- ◇ 行動
- ◇ ロドプシン：光制御 I～II
- ◇ ロドプシン：性質・機能 I～II
- ◇ ロドプシン：構造 I～II
- ◇ 光合成 I～II
- ◇ 光応答タンパク質：DNA I～II
- ◇ 光応答タンパク質：細胞
- ◇ ゲノム生物学 I～IV
- ◇ 生命の起源
- ◇ 生態
- ◇ 分子遺伝
- ◇ 数理生物学・非平衡・生体リズム I～III
- ◇ 計測 I～VII
- ◇ バイオエンジニアリング

- 座長を決めるのが大変だった。最初から座長の候補を多めに挙げておいたほうが良いと思う。
- 3 日目の男女共同参画・若手支援委員会企画シンポジウムが 13 : 30 までであるにもかかわらず、午後の一般講演を 13 : 30 から入れてしまったのは良くなかったと思う。セッションとセッションの間は最低でも 10 分程度開けてスケジュールを組むようにしたほうが良いと思う。

(9) Confit 監修係 報告

担当者：稲葉 謙次（東北大学多元物質科学研究所）

1) 活動の記録

- ・学会運営委員メンバーと数度にわたる協議の上、今年度はオンラインによる開催が妥当であり、その場合、過去に実績のある Confit を用いるのが良いという結論に達した。学会理事会からの了承も得た。
- ・Confit のソフトウェアを開発したアトラス社と AE 企画と協議の上、昨年度のオンライン学会開催方法をベースに、今年度の学会運営方法を検討した。その結果、Confit と Zoom の併用によりシンポジウム、ワークショップ、口頭発表セッションを進行することとした。
- ・Confit と Zoom の併用を前提とした年会用ホームページについて、AE 企画と協議しながら作成を進めた。
- ・口頭発表演題の動画ファイルがある程度集まった時点で、当日学会運営事務局として使用する東北大学多元物質科学研究所大会議室にて、事前に視聴テストを行った。ネットワーク環境、コンピュータ操作方法ともに問題ないことを確認した。

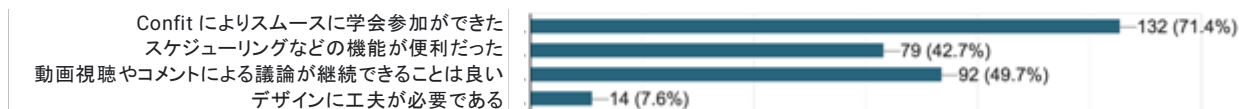
2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

- ・Confit の年会サイト作成において、こちらの変更要望が通らないことが幾つかあった。
- ・事前に発表動画ファイルをアップロードしてもらい、当日それを配信するやり方は、時間通りに会を進行させる上で有効であった。

3) 参考資料

以下に Confit に対する参加者のコメントを掲載する（p43 にも掲載）。

Q6：本年会はConfitを使用して運営しました。これについてご意見...our opinion on the Confit system.
185 件の回答



他のコメント

- ・As the presentations pre-recorded, it would be nice and should not be difficult to real-time update the current presentation number of each session.
- ・マイスケジュールが時間+チャンネルの表形式（プログラム集のような）で出力されると管理しやすい。
- ・質問コメントに対して返信があった場合に、質問者に通知がくるようにして欲しいです。
- ・コメントするにはスケジュールやいいねも公開しなければならないのが不便だった
- ・自分がコメントした発表に新しくコメントがついたら通知する機能が欲しい。質問に回答があるか見に行かないといけなの不便。
- ・time keeper 表示が有った方がよい。
- ・個人のスケジュールをあらかじめ決めていましたが、そこへ正確にたどり着くの毎回苦労したり、聞き損ねたりした。リストを時間系列で作成し、決まった時間にクリックつで会場間を自由に行き来させるツール（アイコン機能）が欲しかった。
- ・There are too many Japanese instructions in Confit, so it was not easy for invited speakers from other countries to use the system.
- ・Zoom の部屋ごと（分野ごと）のページだけでなく、その時間帯にちょうど行っている発表が何かわかるページがあれば使いやすかった（スケジュールよりも繰り上げて進行されていることがあったので）
- ・去年も書いたが個別の参加者にメッセージを送れる機能を実装してほしい。シンポや口頭発表後に oVice で議論を継続したくても、個別にメッセージを送れなければどうコンタクトすればよいかわからない。
- ・いいね機能で関心を持たれているのが分かるのが嬉しかった
- ・動画の画質が悪く実験画像がよく見えなかった。
- ・セッションごとに登録が必要な点が面倒に感じた
- ・私が使いこなせてないだけかもしれないが、コメントや返信の通知機能があるとよい。
- ・自発表にコメントがあった場合メールが来るのは便利だが、もっと便利にできるはず。他のシステムではシステム上で通知がもらえる。また、コメントに対する演者からの返答があった場合も返答がほしい。総じて、Slack と似たシステムにすると思う。
- ・upload した動画の質が少し悪い。同じ動画を北米神経科学会に upload したものと比べた。
- ・シンポジウムの動画が有ったり無かったりするのがよく分からなかった。

(10) 生物物理学会第 59 回年会 実行委員会 会場と仕事のアレンジ係（会場係）報告

担当者：中林孝和（東北大学大学院薬学研究科）

1) 活動の記録

- (1) アルバイトを行う学生のためのマニュアルを作成。一般講演とシンポジウムで進行が異なるためにそれぞれのマニュアルを作成した。また、感染防止のために、アルバイトの方が全員集まって対面で説明・講習を行う形ではなく、オンラインでの説明会を行った。またアルバイトのシフト表を作成した。
- (2) アルバイトマニュアルをもとに、一般講演とシンポジウムそれぞれの座長と講演者のマニュアルを作成した。
- (3) 当日、アルバイトの方に、Zoom でホストとなり、Confit を使って動画を流すなど、一連の作業の指導を行った。

2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

オンラインの今年度は、各発表チャンネルに応じて 1 台の PC が割り振られ、各 PC に一人のアルバイト学生をホストとして割り振った。生物物理学会はパラレルでの発表が多く、最大で 16 台の PC、16 名のアルバイトがホストとして進行するなど大掛かりな構成となった。

- (1) PC はレンタルし、配置、設定はすべて業者の方が行った。非常に手際良く PC の配置などが行われ（コンセントの抜け防止、足元で引っ掛けることの防止を含む）、教員のみではおそらく 2 倍以上の時間がかかり、また、様々な不具合が生じていた可能性が高い。PC の配置と設定は業者の方にお問い合わせの方が良いと思う。
- (2) ぶっつけ本番のために、できるだけ詳しいマニュアル作成を心がけた。しかし、自分自身が理解していない点が多々あり、その点では本番で説明、変更しなければならず、本番でも迷惑をかけてしまった。特に、一般講演では Confit から動画を流し、Zoom で共有する、という少し面倒な形であり、不手際が多々あったと思う。学会の印象は当日の進行状況で決まるところもあるので、会場係はしっかりとした体制を作り、シミュレーションを重ねておいた方が良い。
- (3) 一般講演は、約 8 分の動画と 3 分の質疑からなり、タイマーが必要なのは質疑の 3 分のみである。そこで、一般講演ではタイマーを設置せず、座長とアルバイトが各自のタイマーを測るのみで進行した。実際に行ってみると、タイマーやベルが無い形はスッキリした感じで、個人的には良かったと思う。シンポジウムでは初日はタイマーを設置しなかったが、二日目以降はタイマーを設置した。
- (4) 一般講演において、講演番号は常に表示されるモードにした方が良かった。途中からチャンネルに入っても、どの講演を行っているのか直ぐにはわからず、講演番号は必要であると感じた。

3) 添付資料（この文書の最終セクションにまとめています）

添付 10-1：第 59 回日本生物物理学会シンポジウムアルバイトマニュアル最終版(1122)

添付 10-2：第 59 回日本生物物理学会一般口頭アルバイトマニュアル最終版(1122)

(11) 生物物理学会第59回年会 実行委員会 懇親会係報告

担当者：○ 南後恵理子（東北大）、真壁幸樹（山形大）、中村修一（東北大）、西羽実（東北大）、鎌形清人（東北大）

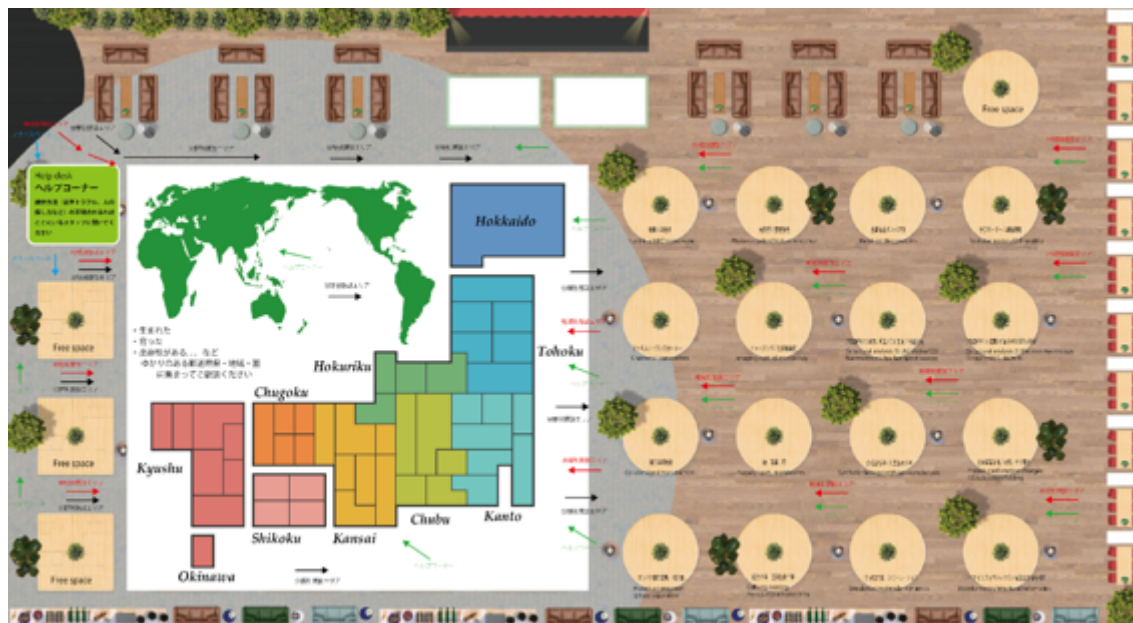
1) 活動の記録

- ・仙台観光国際協会の協力で、おつまみと日本酒のセット3種（石巻の海産物会社(カイトク)と澤乃泉(石越醸造)）の企画・準備。日本酒ラベルのデザインと発注を行った。最終的に43個販売した。



- ・オンラインで懇親会を行う上でのソフトウェア検討を行いoViceに決定した。また、1時間半の懇親会を飽きずに過ごしてもらうため、どのように分かれるかなどのアイデアを検討し、最終的には前半はゆかりのある地域に分かれて歓談、後半は分野別に分かれることとなった。図の作成、当日の司会進行やトラブル対応を行った。

- ・若手奨励賞授賞式の検討、準備、実施を行った。懇親会の最初に授賞式をZoomで開催し、oViceに誘導する形式で行った。



2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

- ・oViceのトラブルはほぼなかった。ポスターセッションなどにも十分使えると思われる。
- ・懇親会セットは会を盛り上げるきっかけになったと思うが、交渉や、日本酒ラベルの準備と手間は非常にかかった。お土産などの販売先紹介などでも十分かもしれません。

3) 参考資料

11-1 懇親会進行表 11-2 懇親会セットチラシ

(12) 生物物理学会第 59 回年会 実行委員会 oVice デザイン係報告

担当者：○西羽美（東北大）、鎌形清人（東北大）

1) 活動の記録

【設置の経緯】

オンライン懇親会会場として選定された oVice が月単位の契約で、期間中は時間制限なく利用可能であること、またバーチャル会場としての自由度の高さから、急遽談話室および企業ブースの設置を行うことになった。

【作業の概要】

1. oVice 契約（8 月末、最初 2 か月は最小サイズ、11 月からは最大サイズを契約）
2. 談話室のレイアウト（背景画像）を考案、PowerPoint で作成（参考資料図 1）
3. oVice 内に会議室を設置（参考資料図 2）
 - a. 会議室予約システムを Google Form と Google Calendar で構築
4. 談話室・懇親会用企業ブース 7 社分及びその他のオブジェクトを設置（※）
（参考資料図 2、図 3、図 4）
 - a. 企業スタンプラリー用の Google Form を準備
5. 懇親会当日：懇親会レイアウトと談話室レイアウトの切り替え（図 4）
 - a. レイアウト画像の変更、固定オブジェクトの切り替え
6. 懇親会当日：技術サポートとして待機

※企業ブースおよび談話室・懇親会用のインタラクティブなコンテンツ（クリックすることでページが開く企業バナーや、スタンプラリー応募フォームへのリンク、Confit のタイムテーブルへのリンク、近付くとページが自動で開く iframe オブジェクト、繋ぐとカメラをオンに出来るミーティングポイント等）として、oVice 内の「固定オブジェクト」を 145 個手動で配置した。数日に分けて作業したが、スタンプラリーアイコンや応募ワードアイコンなどの作成等 oVice とは直接関係ない細かい作業も含めると、トータルでは 6 時間以上かかったように思う。

【会期中の利用状況】

アクセスログに基づくアクセス数を参考資料の図 4 に示す。

懇親会を除き談話室の時間に限定した場合、ユーザ名に基づく推定ユニークユーザ数（運営委員や企業ブース担当者などを除く）はおよそ 130 人程度であった。また、企業の担当者の方は実際の対面学会での企業ブース同様、交代で常駐されているケースが見受けられた。

oVice 内会議室の利用は 1 件であった。

2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

- 設置の経緯で述べた通り、後付けのシステムであったことから全般的に周知が不足していた。
 - シンポジウムや口頭発表の座長に議論の続きは oVice で行くと良い旨、参加者を促してもらえばより良かったと思われる。
 - 会議室は面白いシステムであったので、周知の不足が悔やまれる。
- 企業ブースや Confit との連動など、本来ならオンライン化検討担当や企業広告担当と連携すべき局面が多かった。

- 今回は oVice が後付けであったので概ねこちらが合わせる形で対応したが、本当はもう少し一体となって進められると良かった。
- 会議室カレンダーや Google Form などは自分の（大学及び研究室の）Google アカウントを持出で作っていたが、可能なら学会として Google Workspace を契約し、その Google アカウントで作業できると尚よかった。
 - スタンプラリーなどの個人情報が（いくら大学や研究室のとはいえ）運営委員個人の Google アカウントに蓄積されるのは望ましくない。
- oVice は使う上では簡易なシステムであり、レイアウトも絵を作ればよいだけなので簡単だが、固定オブジェクトを置くなどして会場を作り込むのはかなり手間である（管理画面 UI が非常に使いにくい）
 - こうした Web 開発的な作業に情熱を傾けられる人でないと難しいかもしれない。生物物理という分野の性質上、その手の人物が運営委員の中にいない可能性はかなり高い。
 - 一方で、作業は 100%オンラインであることから、必ずしも現地の委員である必要はないようにも感じる（ので、開催地にかかわらず好きな人・わかる人がやればよいのでは？とも思う）
- 本学会開催の直後、oVice の機能がバージョンアップして Zoom を oVice 内部から利用可能になった。
 - oVice に不慣れな人も多いことから、懇親会は Zoom と oVice の 2 段構成としたが、この Zoom 機能を使えていたら最初から oVice 内で開催も可能だったと思われる。
 - また、閉会式のような Zoom 配信のコンテンツを oVice 内でみんなで視聴する、というような使い方も出来た可能性がある。

3) 参考資料

図 1：考案した談話室レイアウト、左下灰色部分には会議室を設置予定。

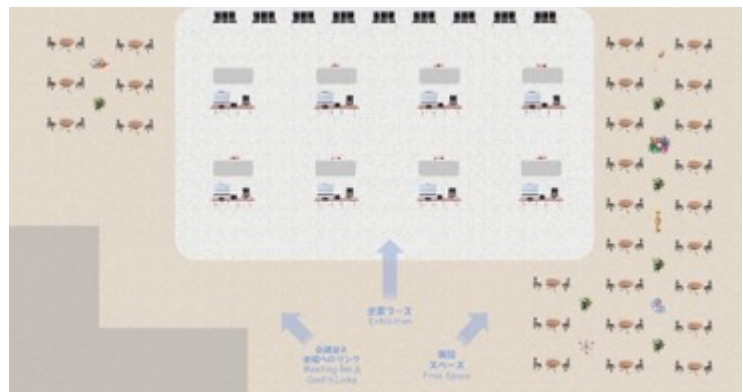


図 2：全てのオブジェクト・会議室を配置した状態。左下に 4 つの会議室を配置したほか、左中央には Confit のタイムテーブルへのリンク等がある。雑談スペースにある各テーブル上にはミーティングポイント（カメラオンで喋るための機能）が設置されている。



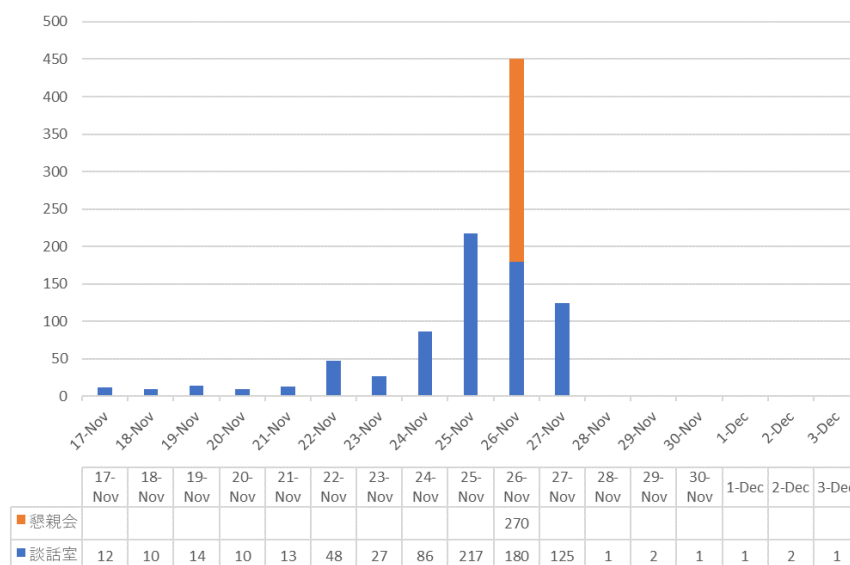
図3：企業ブースの例。バナー（クリックすると企業ページが開く）、スタンプラリー（Google Form へのリンク）、応募ワード（オンライン展示会へのリンク）、ミーティングポイント、iframe（近くと企業ページが oVice 内で自動で開く）からなる。



図4：懇親会時のオブジェクト配置（開催中のスクリーンショット）。日本地図の各地域、および分野別テーブルにはミーティングポイントを配置した。企業ブースは上段にあり、ミーティングポイント以外の4要素が配置されている。



図4：アクセスログに基づく oVice 利用状況。期間内のアクセス数（アバターの Online 回数）をカウントしているため、ユニークユーザー数とは異なる。懇親会の時間は26日の19時台から20時台とした。



(13) 生物物理学会第 59 回年会 実行委員会 スタンプラリー係報告

担当者：鎌形清人（東北大）、西羽美（東北大）

1) 活動の記録

昨年度のオンライン年会で協賛企業のブースに人が集まらないことを聞き、スタンプラリーを企画した。oVice の休憩スペースに協賛企業のブースを設置し、参加者がスタンプラリーに応募できるようにした。また、BP セミナーの参加者も応募可能とした。応募者の情報は協賛企業に提供することとした。実際に、54 名（重複を省いた）の方から応募があり、応募資格を満たした 152 件（応募者の重複を含む）の中から 20 名を選び、景品を贈ることとした。

協賛企業ブース	応募人数	BP seminar	応募人数
シグマ光機	22	DKSH ジャパン	6
NanoAndMore ジャパン	22	PDBj	7
京セラ SOC	27	サーモフィッシャーサイエ ンティフィック	3
浜松ホトニクス	28	シグマ光機	10
ネオアーク	22		
オリシロジェノミクス	27		
オリンパス	33		

2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

オンライン開催の場合、同様の企画を行った方が良いと思われる。

3) 参考資料

展示・BP セミナー応援スタンプラリー

年会の開催にご協力いただいた企業の皆様に応援するために、協賛企業ブースの訪問者や BP セミナーへの参加者を対象としたスタンプラリーを実施します。皆様、企業ブースを訪問し BP セミナーに参加することで、最新の製品情報を得るとともに、ぜひスタンプラリーにもご応募ください。

スタンプラリーの景品

A) モバイルマイクロスコープ（10 名）：レーヴェンフックと同じ球レンズを用いた光学ユニットを、タブレットやスマホに取り付ける方式の顕微鏡です（科学コミュニケーション研究所製）。

<https://lis-co.net/items/5da8352b5b61b46a8f274606>

B) 阿部酒店が選ぶ宮城の地酒（10 名）：仙台亀岡の阿部酒店に宮城の地酒（720ml）を厳選いただきます。

<http://www.abesake.com/>

応募方法

1) 協賛企業ブース訪問の場合：oVice に設置した協賛企業ブースを訪問し、ブースに備えている Google Form から申し込みください。応募には、企業ごとに異なる応募ワードが必要です。応募ワードは、「オンライン展示会」ページの各企業の「製品説明」の中に、「応募ワード」として記載されています。製品個別の「キーワード」とは違いますのでご注意ください。応募ワードは、各企業の説明会及び oVice ブースにおられる企業の方から、直接教えていただいてもかまいません。

2) BP セミナー参加の場合：BP セミナーにご参加ください。セミナーの途中で Zoom の Chat にて、スタンプリー応募のための Google Form のアドレスをお知らせします。キーワードは unnecessary です。

- ・応募を行った方の中から、抽選で 20 名の方に景品の 1 つをお送りします。多数の企業に応募すると当選確率が上がります。

- ・応募された方の氏名とメールアドレスを応募した協賛企業にお渡しすることをご了承ください。メールアドレスは、それぞれの企業によるメールマガジンの送付以外の目的には使用しません。

- ・ブースの訪問者や BP セミナーの参加者数が多いことが、来年度以降の協賛に繋がります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

oVice 企業ブースへの入り口

oVice アドレス <https://bsj2021.ovice.in/@2480,2200>

企業の方が oVice ブースにおられる時間帯

昼休憩、懇親会 （不在の場合もあります）

(14) 生物物理学会第 59 回年会 実行委員会 SNS 係報告

担当者：吉留崇（東北大工）、横山武司（東北大生命）、○松井敏高（東北大多元研）

1) 活動の記録

A) SNS (twitter) による各種アナウンス： 8 月下旬に年会用の twitter アカウントを作成・ハッシュタグを設定し、年会 HP に埋め込んでおいた。また、関係者・団体を積極的にフォローするなどして、なるべくフォロワーを増やしておいた。9 月下旬から 11 月初旬にかけて、メール・web を補完する形で各種事前アナウンスを行った。学会中はプログラムやイベントの通知、参加者の要望吸い上げ（zoom のデフォルト設定の変更）などを担当した。

B) SNS 上の交流促進： オンライン会議を盛り上げるため、SNS 上での議論や発表情報の活発な交換を促す方針のもと、その周知や SNS 公開時のルール策定などを行なった。

2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

Twitter でのアナウンスに関しては、フォロワーを増やしておけば手間に比べて十分効果が高いと考えられ、対面開催となっても継続する価値はあると思われる。また、参加者が要望を出す手段としては使いやすく、今回はうまく機能したと思うが、頻繁にチェックするのは面倒で、個人の要望にどこまで対応するか、難しさを感じた。一方で SNS 上の盛り上がりは限定的に感じられたが、積極的に参加するもの（共催の新学術など）もあった。本当に根付かせるにはある程度長期的な継続が必要と思われる。

3) 参考資料

添付資料 14-1：Twitter: @59bsj2021（113 フォロー中、150 フォロワー）のツイートアクティビティ

(15) 生物物理学会第 59 回年会 実行委員会 学生アルバイト係報告

担当者：○ 権田 幸祐（東北大学）、柴田 穰（東北大学）

1) 活動の記録

- 学生アルバイトの確保、シフト決定、学生への業務教育は、年会業務の全体の方向性が固まってから行ったため、年会 2 か月前の 9 月下旬に高橋大会長から担当員に業務の打診があり、10 月からアルバイト係としての業務を開始した。
- 体制として、権田（東北大）と柴田（東北大）で必要ファイルの作成や告知（学生との連絡を含）などを行い、要所で高橋会長に確認を取りつつ進めた。またアルバイト学生への給与支払い等、金銭関連の業務は、エー・イー企画の目黒氏に対応していただいた。
- 権田と柴田で年会のスケジュールと実行委員の要望に従い、「資料 1 生物物理バイト募集チラシ（仙台年会）」と「資料 2 アルバイト学生情報」を作成した後、10/18 に Slack に配信した(10/19 に一部修正)。アルバイトの担当は、年会実行委員の研究室の学生に行って貰うことを想定し、募集案内は年会実行委員のみに対して行った。
- アルバイトの時給決定は、東北大の TA 制度を参考に決定した。東北大の TA 制度では、修士：1,300 円、博士：1,500 円、博士以上：2,000 円が目安となっている。今回は「① 事前教育が必要なオンライン配信の支援事業」や「② 高校生対象のワークショップ対応」であり、通常の授業 TA とは異なる専門性を必要とする業務のため、アルバイト学生の学年に関わらず①は時給 1,500 円、②は時給 1,700 円とした。
- 募集締め切り日は 10/29 としたが、この日までに必要なアルバイト数を充足できなかったため、再度の呼びかけや個別の依頼を通して、2 週間ほどかけてアルバイト人数を確保した。アルバイトの募集においては、必要人数の 10-15%の予備員がいるように募集を行った。
- 年会の約 1 週間前の 11 月 19 日 13:00~14:00 の日時に Zoom を用いて、①の業務に関してオンライン講習を行った。オンライン講習は学生を拘束していることから、時給分の給与を渡した（年会当日分のアルバイト代と一緒に付与）。講習会の質疑応答ではいくつか質問があり、学生の理解は深まったと感じられた。また講習に参加できなかった学生や講習を視聴し直したい学生のため、講習会の様子をビデオでオンデマンド視聴できるようにした。
- 年会当日の業務において、最初は若干の混乱があったが、大きなトラブルもなく、学生アルバイトの支援によって年会のスケジュールは順調に進んだと思われる。
- 学生への給与支払いは、各学生のアルバイト担当最終日に目黒氏から現金を渡していただいた。生物物理ワークショップのみ担当のアルバイト学生へは、後日振込で給与支払いされた。
- 今回、学生達にとって十分な時給であったこと、また年会の運営状況を肌で感じる雰囲気の中で業務ができたこと、以上のことからアルバイトに参加した学生の満足度は高かったと感じている。

2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

- 年会数日前に急用で出勤が困難になった学生がいたが、必要人数の 10-15%の予備員がいるように募集を行ったことで、十分に対応できた。特にコロナ禍での年会運営であったため、体調が気になる学生がいた場合、安全な運営を行なうためにも必要な措置であったと思われる。1 年後のコロナの状況次第であるが、次回の年会においても予め予備員を募集しておくことは大事だと考えられる。
- オンラインで業務を行う場合、必ずトラブルが発生すると想定されるため、教員 1 名が 4-5 名のアルバイト学生のトラブル対応ができる状態にしておくことが重要であると感じた。教員が対応しきれない場

合も出てくるが、座長の先生や参加者に一定の安心感は供与できると思われる。

3) 参考資料

- 「添付 15-1：生物物理バイト募集チラシ（仙台年会）」と「添付 15-2：アルバイト学生情報」を参考資料として添付する。
- 以下にオンラインサポートの様子を貼り付ける（学生の顔が写りこまないように後ろから撮影）。写真で認められるように着席して作業を行う学生を数名の教員が見回り、トラブル時のサポートを行った。



(16) 生物物理学会第 59 回年会 実行委員会 高校生・高専生 生物物理ワークショップ 係報告

担当者：○鳥谷部祥一（東北大），柴田譲（東北大），羽鳥晋由（山形大），
最上譲二（東北大），元池育子（東北大）

1) 活動の記録

例年、「市民講演会」として年会に併せて対面での講演会を開催してきた。しかし、参加人数は決して多くなかった。そこで、高校生や高専生をターゲットにしたオンラインの講演会を企画した。ただし、単なる講演会ではなくインタラクティブな形式が良いのではないかとということで、グループ討論や質問コーナーを含めたワークショップ形式とした。

宣伝は、ポスター（180 校程度に郵送），SNS，年会 HP，年会参加者への宣伝お願いなどを通して行った。参加者は 45 名（参加登録者は 59 名程度），議論参加者は 11 名（登録者は 15 名）であった。

日時：11 月 23 日（火，祝日）13:30 ～16:50，会場：オンライン

主催：日本生物物理学会

対象者：主に高校生および高専生。参加費無料。参加申し込み必要（11 月 12 日締め切り，年会 HP から）。

プログラム：

1. 講演 3 件（それぞれ，講演 25 分＋質疑応答 5 分）

- ・西口大貴（東京大学 理学系研究科 物理学専攻 助教）

微生物の泳ぎと群れの運動を物理学者と一緒に眺めてみよう！

- ・柳澤実穂（東京大学 総合文化研究科 先進科学研究機構 准教授）

「細胞の形とその力学：真似して造って理解する

- ・白井剛（長浜バイオ大学 フロンティアバイオサイエンス学科 教授）

「物理の力」で病気と闘う？

2. グループディスカッション（講演中に出される「お題」に関して，グループに分かれて議論。） 30 分程度

3. ディスカッションの内容をグループごとに発表。 10 分程度

4. 交流会（質問コーナー） 20 分程度

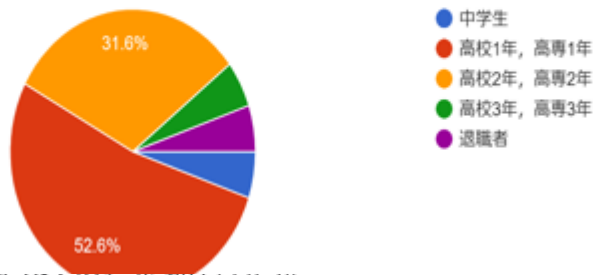
2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

- － 参加者，特に，グループ議論参加者からは高い評価をいただいた。また，高校の先生などからは，このような会が継続的にあると大変嬉しいという話を伺っている。可能であれば，来年度以降もこのような会を企画していただきたい。
- － 北海道から沖縄まで，参加者は広い地域に分布していた。高校生・高専生は旅費を払うのが難しく，オンライン開催のメリットは非常に大きい。

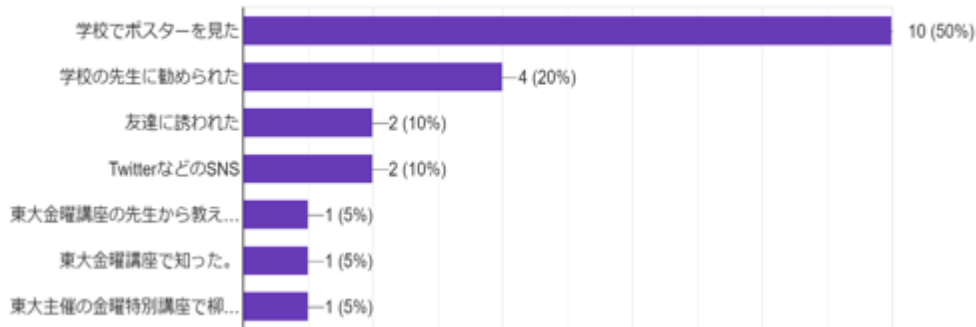
3) 参考資料

別途，詳細な引継ぎ資料を提出するが，アンケート結果の抜粋を以下に載せる。

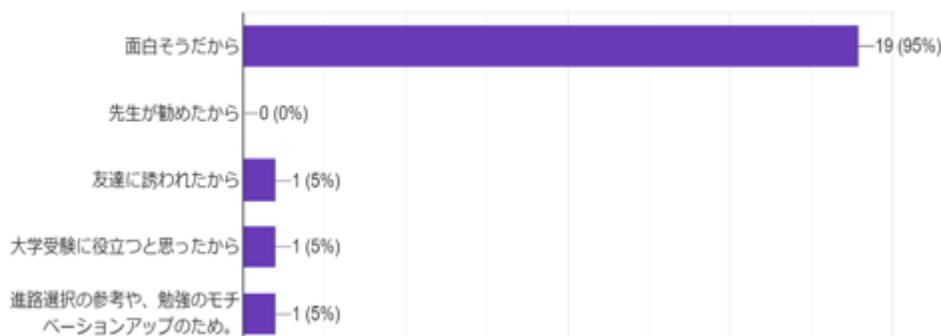
ナナ
19 件の回答



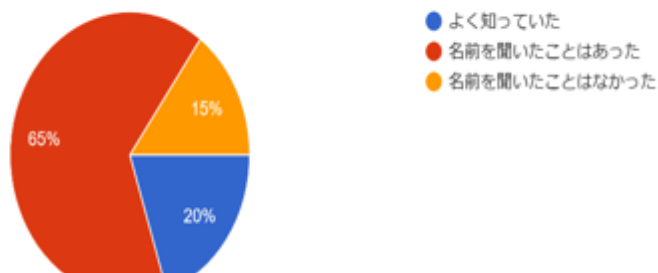
このプロフィールをこのように知りよしたか
20 件の回答



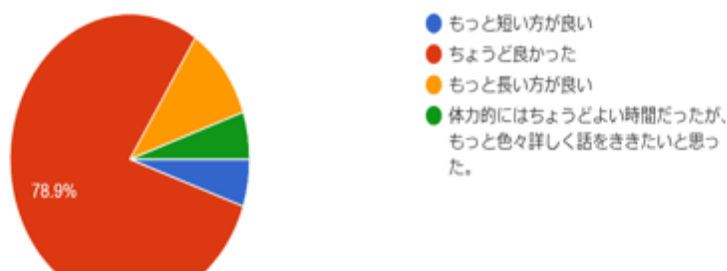
20 件の回答



20 件の回答

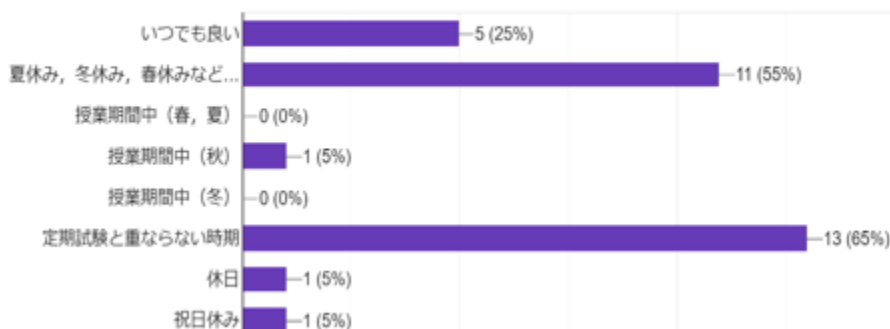


19 件の回答

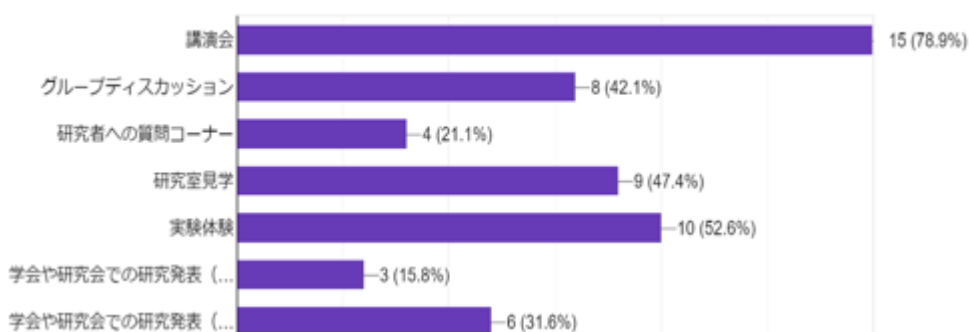


このグラフは正画に参加した学生の回答の時期をグラフに示します。

20件の回答



19件の回答



（ただし、下から2番目は「学会や研究会での研究発表（自分が発表）」、一番下は「学会や研究会での研究発表（聴講）」）

「今回のワークショップの良かった点がありましたら、お願いいたします。」

- ・ 意見共有が行えた
- ・ 自分たちで研究について話し合えたのが良かったです。
- ・ ご案内が直前だった。
- ・ 発表の図が綺麗だった
- ・ Zoomでディスカッション出来たこと。
- ・ グループディスカッションがあったこと。
- ・ 学生サポーターの方がとても親切だった点。
- ・ ちょうどよい規模で、質問しやすかったし、他学年とのディスカッションも楽しかった。普段はなかなかできないので貴重な。
- ・ グループディスカッションが、知見を深められてとても良かったです。講演の質もとても高く、興味深いお話を聞くことができたように思います。

「今回のワークショップの改善すべき点がありましたら、お願いします。」

- ・ ご案内を早めにお知らせいただきたかった。
- ・ 特になし。
- ・ 時間をもう少し増やしてほしいです。（特にディスカッション）

「他にコメントがありましたらお願いいたします。」

- ・ とても有意義な企画で、ありがたく思います。
- ・ 皆さんの発表がとても綺麗でした。
- ・ なし
- ・ 講演する先生方も司会の方々も優しく、私のような詳しくない者の発言も寛容にうけとめてくださり、とても過ごしやすかったです。また、アイスブレイクの際に、zoom背景や好きな食べ物からサッと話をふって頂き発言しやすくなりました。
- ・ このような、今実際に行われている研究に触れられる、素晴らしい機会を設けてくださりありがとうございました。楽しかったです。進路選択の参考や、モチベーションアップとしても貴重でした。

(17) 閉会式係報告

担当者：○森本展行（東北大工）、最上譲二（東北大工）、渡部聡（東北大多元研）、

1) 活動の記録

WEB 年会での閉会式を担当するにあたり、実施方法を検討した。各地から接続して円滑に進めるには Zoom が無難であろうとのことで Zoom での開催を決定した。役割分担を、進行・挨拶依頼連絡：森本、現地カメラ・PC 接続：最上、本部対応・原稿作成：渡部とした。

また、閉会式の開催場所を当初予定していた仙台国際センターで行うこととし、次回大会長である金城先生をお招きし、大会旗の受け渡しを現地で行うこととした。各先生に英語でのご挨拶の依頼、閉会式進行の原稿を準備するとともに、現地調査を行った。その結果、センター外部の入口での開催が画角的に最適で、WiFi 接続も良好であることを確認したが、当日センター内部の使用許可がおりたことから、急遽、外部から建物内部へと移動しての閉会式開催となった。なお学生発表賞については接続トラブル回避のため、今田先生よりファイルを前もって送付していただいた。ポケット WiFi はレンタル品を、カメラは東北大学工学部より借用した。

式次第

- (1) 年会長挨拶 高橋先生（会場中継）
- (2) 会長挨拶 野地先生（Zoom リモート）
- (3) 学生発表賞の発表 今田先生（Zoom リモート）
- (4) 大会旗の次期年会長への受け渡し（会場中継）
- (5) 次期年会長挨拶 金城先生（会場中継）

およそ 200 名ほどの方にご参加いただき、接続トラブルもなく無事に終了することができた。

2) 次回以降の年会運営に向けた連絡事項など

特になし

(18) シンポジウム・サテライトシンポジウム開催報告

< 1 S 1 > : Japan-US symposium on cytoskeletal motor proteins and their associated proteins

オーガナイザー：林 久美子（東北大学工学研究科）、丹羽 伸介（東北大学学際科学フロンティア研究所）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

IBC2024@京都を念頭に、アメリカ生物物理分野との交流を目指した。二国間シンポジウムを盛り上げるために、講演者選択を広い分野でなく限定的な専門的な分野（分子モーター分野）に絞り議論が密になるように工夫した。特定の分野で交流の核を作ることを優先した。参加した 60 人はほぼ分子モーター分野の研究者であり（排他的であったが）議論は密になったと思う。

- ・十分な議論ができたか

講演中の質問は多く、議論が盛り上がり良かった。Confit のチャットシステムは一部の講演ではやりとりがあったが、講演者が見ないこともあり、盛り上げるのが難しかった。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

3名の海外講演者（米国）を招待した。専門的な分野（分子モーター分野）に限定し、すでに顔見知りの講演者を招待することで日米の交流を容易にした。

- ・Symposium pick up（取り入れた場合）は有効に機能したか

若手奨励賞受賞者の申し込みがあり、海外講演者に受賞者を紹介する機会となった。有効に機能したと思う。pick up に昨年の日本生物物理学会の若手奨励賞受賞者の優先制度があってもいいのではないかな。

- ・参加者数はどのくらいだったか

60 名前後

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

司会とタイムキーパーを兼ねることが難しかった。オンラインでのタイムキーパーは容易な技術なので年会では導入してほしい。オンラインと対面のハイブリッド化はなくならないと思うので、デジタル化に対する技術向上が必要である。国際化に向けて高度なデジタル化が必須課題。

< 1 S 2 > : ケミカル AI を創る分子システム工学の黎明

オーガナイザー：豊田 太郎（東京大学）、浜田 省吾（東北大学）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

若手・女性・海外招聘・異分野の 4 点にこだわって、スピーカーを選出して依頼した。

- ・十分な議論ができたか

シンポジウムが 2 時間半である中でスピーカーを 5 名としたために、シンポジウム内で議論できる時間をあまり確保できなかった。なお、通信上の問題は生じなかった（運営スタッフの方には大変感謝しております）。

なお、海外からお呼びした 2 名の招待講演者の方とは、シンポジウム終了後メールで質問等の情報交換を行なった。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

はい。

- ・ Symposium pick up (取り入れた場合) は有効に機能したか

取り入れませんでした。

- ・ 参加者数はどのくらいだったか

最高同時視聴者数は 50 名ほどでした。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

オンライン配信は、海外からの招聘が容易になったともいえる。しかし、face-to-face ではないことで、シンポジウム時間外での視聴者と登壇者との交流をうまくはかることができなかったのは反省点である（懇親会は、時差とバケーション (Thanksgiving) の関係で海外招聘者に参加いただくことを断念した）。

今回、シンポジウムの内容はオンデマンドでの配信をしないとしていたものの、主催者による内部利用のための録画が行われていたことに一部の講演者から心配の声が出ていた。今後は、予めその点についてもマニュアルに注記しておいた方が良いと感じた。

< 1 S 3 > : 実験と理論の共同による生命金属動態研究の最前線/Recent progress in biometal sciences: synergy between theory and experiments

オーガナイザー：重田 育照（筑波大学）、當舎 武彦（理化学研究所）

1) シンポジウムの開催記録

本シンポジウムは新学術領域「生命金属科学」の共催ということで、「生命金属」をキーワードとして研究を展開されている領域内外の研究者の方々に最新の研究成果を発表していただきました。シンポジウムのタイトルにあるように、「実験と理論の共同」ということを念頭に置き、講演者を選定しました。海外の講演者は招待しませんでした。生化学・分光学・構造生物学・放射光イメージング・理論化学（2 名）と様々な分野の国内の研究者の方々に講演をお願いし、共同研究の可能性などを見据え、生命金属科学分野の研究の更なる発展を願い、本シンポジウムを企画しました。

シンポジウム当日は、運営スタッフの協力に加えて、講演者の方々が発表時間を遵守してくださったこともあり、円滑にシンポジウムを進行することができました。聴講者は 50 人弱で、各講演において活発な議論を行うことができました。シンポジウム終了後は、短い時間でしたが、講演者とオーガナイザーを交えて、時間内にうかがうことのできなかった質問など、今後の生命金属科学研究につながる議論の場をもつことができました。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

特に意見はございませんが、タイマーについては下記のサイトを参考にさせていただきました（東北大学の物理の齋藤先生のグループでしょうか？）。何かの折に情報共有頂ければと思います。

<https://flex.phys.tohoku.ac.jp/japanese/computer/timer.html>

<http://maruta.github.io/timekeeper/#t1=15:00&t2=20:00&t3=25:00&m=Click%20to%20edit%20this%20message>.

< 1 S 4 > : Structural and Functional Dynamics of Biomolecules: Interplay between Single Molecule Measurement and Molecular Simulation

オーガナイザー：古田 忠臣（東京工業大学）、鎌形 清人（東北大学）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

本シンポジウムは、生体分子の構造的・機能的ダイナミクスに関して、実験（1分子計測）と計算（分子シミュレーション）のさらなる協奏を目的に開催した。企画にあたっては、多方面からのバランスの取れた、分野を牽引する（新進気鋭ならびに確立した）講演者を招集することにより参加者の促進を図った。

- ・十分な議論ができたか

開催当日、150分のシンポジウム時間に対し少し多めの7名の講演者としたため、時間の超過を考慮し僅かに議論（質疑）の短いものがあつたものの、ほとんどの講演において有意義な議論することができた。ただし、そのことにより30分程度の時間の超過が生じた。講演者交代時の操作や十分な議論には時間的超過は避けられないことから、今後のシンポジウムにおいても、今回同様にシンポジウム後には超過を考慮した時間的猶予があることが望ましいと思われる。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

海外講演者や海外参加者との交流に関して、年会開催前に比ベシンポジウム（年会）開催時点（2021年11月）において、日本での新型コロナ感染者数はかなり落ち着いてきた状況にあつた。しかし、シンポジウムを企画する時点（2021年2月）では、当初現地開催が想定されており、未だ先が見通せない状況であつたことから、今回海外からの講演者は招待しなかった。一方、当日の参加者としてはオンラインとなったことによりアジアなど海外からの参加者（聴講者）も一定数はいたかと思われる。

- ・参加者数はどのくらいだったか

これら素晴らしいご講演により、オンライン（Zoom）での入出により正確には把握できていないものの、最大で170名程度もの参加者があり、大変盛況なものとなった。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

参加に（海外ならびに国内遠方からの）移動をとまなわない、また会場の収容数に左右されないというオンラインの利点などから、今後、オンライン&現地のデュアルでの年会の開催は参加者を増やすために有用かと思われる。

< 1 S 5 > : 1細胞解析が切り開く新しい細胞観

オーガナイザー：黒田 真也（東京大学）、谷口 雄一（京都大学）

1) シンポジウムの開催記録

本シンポジウムでは、近年注目を集める1細胞生物学において優れた研究を行っている計5名の研究者による講演を行った。講演者のうち2名は海外の国籍を持つ研究者で、そのうち1名は海外機関のセンター長を兼任している方である。教授クラス1名、准教授クラス2名、ポスドククラス2名の構成で、数々の優れた成果を残しているベテランと、将来の分野を担う若手の両方を含む形で演者を選定した。発表時間は20分、議論は5分とし、他のシンポジウムと比較してゆったりと講演を聴けるように計画した。

当日、1人目の演者が案内に迷い、参加が少し遅れるという事態はあつたが、全体的にはスムーズに進行した。参加者数は覚えていないが、かなり盛況だったように記憶している。シンポジウムの終了後にはオーガナイザーと講演者との間でディスカッションを行った。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

今回座長が自前で時計を用意してタイムキーパーを行ったが、可能であれば運営の方のウィンドウにプレゼンタイマーを表示して頂けると進行がやりやすくなるように感じた。また、要旨集にはシンポジウムの開始・終了時刻が記載されていたが、各講演者の講演開始・終了時刻も記載されていると便利と感じた。

< 1 S 6 > : GPCR 研究における新たなコンセプトと創薬への示唆 / New concepts in GPCR research and implications for drug discovery

オーガナイザー：片山 耕大（名工大院工）、寿野 良二（関西医科大）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

本シンポジウムでは、創薬の標的分子と重要な G タンパク質共役型受容体 (GPCR) のリガンド認識、活性化、およびシグナル伝達に関する分子機構を理解し、有効な薬剤開発を目指す研究者が集い、最新の研究手法・成果について議論することで、GPCR 研究を活性化することを目的としている。

- ・十分な議論ができたか

構造生物学分野に革命をもたらした低温電子顕微鏡による単粒子解析技術を駆使した GPCR-G タンパク質複合体解析を行う研究者を始め、独自のシグナル伝達活性評価法、計算化学、ケミカルバイオロジー、分子デザイン、振動分光法など、多岐に渡る手法を適応することで、GPCR ベースの薬剤開発研究の促進に貢献する研究者が一度に集結し、活発な議論を行うことができた。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

ピックアップ演題を含め 7 名の講演者のうち、1 名の海外招待講演者を加えることで、生物物学会年會が掲げる国際化に向けた、活発な英語による議論、質疑応答を行うことができた。シンポジウムによっては、日本語での質疑応答も承諾していたが、本シンポジウムでは全て英語での開催を実現できた。

2 名のピックアップ演題を加え、若い研究者による発表の場を設けることで、国外に向けた日本の GPCR 研究における今後の更なる活性化を図ることができた。

- ・参加者数はどのくらいだったか

60-70 名の参加者が常に確認できるような、盛大なシンポジウムを開催できた。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

・オーガナイザーおよび座長の力量も試されるが、質疑応答での学生からの質問を得ることができなかったのが今後の課題。

・海外からの講演者を 1 人招待したが、登録システムの複雑化により、期間内での登録はできず、オーガナイザーの負担が増えたため、今後の登録システムの改善を期待したい。

・ピックアップ演題システムは今後も推奨したい一方で、本シンポジウムでは登録の段階ですでに 5 名の講演者を予定していたため、ピックアップ演題 2 名が加わることで、1 名あたりの発表時間が制約されたため、ピックアップ演題の人数調整も考慮して欲しい (例えば、正規講演者が 5 名以上の場合はピックアップ演題は 1 名のみなど)。

< 1 S 7 > : インドー日本交流シンポジウム：生物物理の多彩な挑戦

オーガナイザー：坂口 美幸（埼玉大学）、永井 健（北陸先端科学技術大学院大学）

1) シンポジウムの開催記録

このシンポジウムは、インド生物物理学会(IBS)と日本生物物理学会(BSJ)の交流を促進する目的で行った。IBS より、生物の発生からアクティブマターに至るまでの幅広い分野から、4名の演者をご推薦いただいたので、BSJ からも IBS 側の講演に関連づけられるように3名の演者を選ばせていただいた。このような背景から、本シンポジウムでは「特定のトピックス」について議論を深める事が難しかったので、「両学会の多彩な研究を紹介しあう」形で行う事にした。

今回はオンライン開催で海外からも気軽に参加出来ることから、IBS 会員、特に学生会員を本シンポジウムに招待する事を検討した。この提案をしたところ、学会の理事会や年会の実行委員より迅速かつ寛容なご対応をいただき、IBS 学生会員であれば無料で参加出来るという形で実現する事が可能となった。また演者の皆様も快諾してくださり、IBS 側にかけあうと、直ぐに協力体制を整えてくださった。オーガナイザーとしてはスムーズに進める事が出来、本当にありがたかった。IBS 側が取りまとめてくれた参加希望者(44名)のメールリストをもとに、シンポジウムの zoom ID とパスワードを連絡し、ご参加いただいた。

講演の中には未発表のデータもあったため、オンデマンド配信は辞退した。また、海外からの参加者もいたため、「録画録音厳禁」といった年会の注意事項を一通り述べてから、シンポジウムをスタートした。演者は皆 zoom の発表に慣れており、接続不良などの問題も発生する事無く、滞りなく講演を進める事が出来た。質疑応答では、演者どうしや IBS 参加者からも活発な意見交換が行われ、十分な議論が出来たのではないかと考えている。本シンポジウムの参加者は40名程度であった。著名な先生方が同時刻に多くのシンポジウムを開催されていた事を考えると、若輩者のオーガナイザーとしては大健闘だったのではないかなと思う一方、聴衆を集める工夫が不十分であったのではないかなという反省点も残った。しかし、オンラインの強みを生かし、海を越えて両学会の会員が交流出来た事により、このシンポジウムの目的は十分に達成されたと思う。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

今回、シンポジウム以外で参加者どうしが交流を持つことが出来ず、関係がやや希薄になった印象があった。オンライン開催は現地開催より比較的簡単に参加出来るという利点がある一方、海外からの参加者は時差もあり、懇親会にまで参加する事にハードルがあると感じた。

< 1 S 8 > : 水のダイナミクスと生物機能:再考

オーガナイザー：今清水 正彦 (産総研), 村上洋(量子研)

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど。

水ダイナミクスのシンポジウムは過去にも、生物物理学会があった。企画に留意した点は、物理化学の話で終わらないように、生物現象だけにならないように、物理化学から生物機能まで、連続的な議論を育む工夫を入れた点である。このため、特に生物機能と分子ダイナミクスの timescale の違いの問題を深く議論することに心がけ、招待講演者を含めてシンポジウム本番前から zoom 会議を何度か行い、コンセプトの共有をはかった。

- ・十分な議論ができたか。

正直に十分な議論ができなかった。時間の制約や聴衆から新しい議論の参加を期待したため、また、生物物理のような学際分野の研究はちょっと聴いてすぐに深く理解できるものは少ないため、議論が不十分な状況は予想していた。持ち時間を考えると、問題提起や議論のきっかけになるだけでありがたい(それが現実的)と感じた。シンポジウム後の議論の発展が大事。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

海外から2名、水ダイナミクス研究で顕著な業績をあげ、かつ本シンポジウムのコンセプトに合う研究者（理論1名、実験1名）を招待した。本番は十分な議論には至らなかったものの、シンポジウムを介して事前 zoom 会議や事後のメールでの議論を行い、有意義な交流を図ることができた。

- ・Symposium pick up（取り入れた場合）は有効に機能したか

学生を1名 pick up した。学生が1名入るだけで、場の雰囲気が明るくなり、議論も盛り上がった。学生の supervisor とも知り合いになり、大変有効に機能した。良い制度と認識した。

- ・参加者数はどのくらいだったか

参加者数は40-50人でした。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

本番の議論は十分にできないので、聴衆が気軽にコメントを残し、その後の議論が email などでも円滑に続くと感じた。Confit の機能にあったが、後からログインしないと見逃すので email にもコメントが残せると良い。

シンポジウムのオーガナイズを介して、異分野の研究者と深く議論したり、新たに知り合いになるなど、新展開があった。研究費メンバーの仲間内で行うシンポジウムだとマンネリ化するので、なるべく新メンバーで新しい問題提起があると良いのではないかな。

オンラインの運営上全くしょうがないですが、シンポジウムが集中する（裏番組が多い）時間帯とそうでない時間帯があった。可能であれば、できるだけ分散できると良いと感じた。

オンライン開催は、海外から講演者を呼びやすい利点があると感じた。現地・オンラインハイブリッドを含め、オンラインの良い点は今後現地開催になっても継続できると良いと感じた。

< 1 S 1 0 > : Recent Advances in Origins of Life and Protocell Research

オーガナイザー：Tony Z. Jia, ELSI, BMSIS / Yutetsu Kuruma, JAMSTEC, ELSI, JST

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

We wanted to explore different aspects related to protocell research related to origin of life. We organized the meeting to feature increasing complexity of protocell systems, starting from simple systems like LLPS, then increasing in complexity to vesicles and finally to artificial cells. Finally, we made sure to invite only early career researchers as speakers (no highly established faculty), and also had 3 out of 7 speakers as women to promote gender equality and diversity. You can find a more detailed description of the scientific content in the commentary that the symposium organizers wrote for BPPB: https://www.jstage.jst.go.jp/article/biophysico/18/0/18_bppb-v18.032/_article

- ・十分な議論ができたか

Yes, but we did not have enough time for very detailed discussion after the seminars. I think the next year's symposium could focus more on discussions/panels and slightly less on the talks. Or, the symposium time can be extended so that we can have more time for discussion.

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

Yes, we invited one speaker from Australia, and one non-Japanese researcher in Japan. There was enough communication between domestic and foreign participants, and I think everyone enjoyed the exchange. In the future, it is good to have about 1-2 speakers from abroad for each symposium (not too many, but not too few). Now, since we are

doing virtual meetings, it is a good opportunity to invite foreign speakers. However, the timezones may be a problem for certain countries.

- ・ Symposium pick up (取り入れた場合) は有効に機能したか

Yes. We had two pick up speakers, and both were fantastic speakers even though they were early graduate students (and it was their first English presentation at a conference as well). The pick up system is very effective, and it should be used for as many symposia as possible.

- ・ 参加者数はどのくらいだったか

116 attendees total.

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

The staff who helped to run the sessions did not speak English. We had one international invited speaker, and the staff kept trying to speak Japanese to get their attention. Of course, it may be difficult to find staff who can speak English, so at least I would recommend in the future to give some training or information that not everyone will respond to Japanese because there are a number of international attendees and speakers in the symposia (especially for virtual meetings).

Finally, I would recommend that in the future, BSJ symposia can be encouraged to invite non-male (female or non-binary), early career (especially students), and foreign researchers (about 1-2 per symposium) to promote inclusion and diversity.

< 1 S 1 2 > : 生物物理・ソフトマター物理と医学の接点を探る **Bridging biophysics/soft-matter physics and medical science**

オーガナイザー：藤崎弘士（日本医科大学），好村滋行（中国科学院大学・温州研究院 / 東京都立大学）

1) シンポジウムの開催記録

2021 年 11 月 25 日午後 4 時から、Zoom 会議システムを用いて、上のタイトルでシンポジウムを開催した。講演者は 5 名、講演時間は 25 分、質疑応答を 5 分とした。また opening talk としてオーガナイザー（藤崎）が開催の趣旨を 5 分ほど話した。多少開催時間は延びたがほぼ時間内に終了した。

シンポジウムの目的は opening talk でも触れたが、医学・医療と物理学の接点を探ることである。現在の生物物理学会では、医学や医療の問題を物理的な観点から扱っている研究の数は欧米に比べると少ない。原子レベルでタンパク質や DNAなどを調べる研究はもちろん行われているが、細胞・臓器・器官をより上のレベルの階層の記述、例えばソフトマター物理で扱うことで、より医学・医療に物理学を活用できるはずであり、その関連の研究を行っている研究者を招聘した。そこで講演者としては、主に医学部に属している研究者や、臨床の医師を選定した。また若手研究者も一人含めたが、女性研究者は含まれなかった。

質疑応答を 5 分としたが、やや高度な内容を含むために、議論はあまり活発ではなかったかもしれない。もっとチュートリアル的な講演があったほうがよかっただろう。ただし、質問が全くないということはない。

海外からはハイデルベルク大学（ドイツ）の講演者（ただし、日本人）を招待した。またオーガナイザーの一人は中国から参加した。Zoom 会議のシステムは特に問題なく機能した。参加数が多い時で 50 人ほどであった。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

アメリカ生物物理学会などの本場の医学物理の研究者を招待する、女性研究者を招待する、チュートリアル講演を行う、質疑応答時間を増やす、などをしたほうがよいと考えた。

< 1 S 1 4 > : 勾配検知の情報生物物理学 Information biophysics of gradient sensing in organisms

オーガナイザー：石島 秋彦（大阪大学），岡田 康志（理化学研究所/東京大学）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど
シンポジウムタイトルに合致した講演者の選出
- ・十分な議論ができたか
多数の質問があり，十分な議論ができたと思います。
- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？
招待しました（Tom Shimizu, AMOLF）。海外の講演者がたくさんの質問をしてくれました。
- ・Symposium pick up（取り入れた場合）は有効に機能したか
講演時間の関係で取り入れませんでした。
- ・参加者数はどのくらいだったか
すいません，カウントしたのですが，忘れました。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

オンラインにも関わらず，通常と変わらないシンポジウムを開催することができました，運営の方々，ありがとうございました。質問も多数いただきましたが，発言する人としらない人で別れてしまったのが今回のオンラインシンポジウムに限らず，問題ですね。オンラインを生かした，気軽な質問の仕方などを考えたいですね。ZOOMではチャットをうまく使えば，講演を妨げずにその都度疑問に思ったことを発信できますが，まだそのような使い方は一般出来はないようです。

ふと思ったこと，疑問に思ったことを気軽に共有できるようなシステムがほしいです（ただ，無責任，攻撃性の高いコメントをどう防ぐかは難しいですが）。

< 2 S 2 > : 生物物理学的手法を駆使した細胞内プロセスにおけるタンパク質間相互作用の理解／

Biophysical basis for understanding the protein-protein interaction involved in essential cellular process

オーガナイザー：武藤 梨沙，小柴 琢己（福岡大学理学部）

1) シンポジウムの開催記録

タンパク質-タンパク質相互作用は，細胞内外で起こる重要な生体反応の1つであり，その反応機構を理解するために，私たちは様々な生物物理学的手法を用いて研究を行っている。本シンポジウムは，オーガナイザーを含む5名の招待講演者と2名のピックアップ演題の計7講演で構成され，発表者の専門分野や実験的手法が被らないように選定した。それ以外にも，発表者の年齢，地域，性別などに偏りがないように配慮した。講演内容は，質量分析法を用いたタンパク質複合体の解析，脂質タンパク質の試験管内最構成系による膜タンパク質融合反応の解析，熱力学的分析法を用いたタンパク質間相互作用の解析，一分子イメージングを用いたチャネルの解析，光遺伝学を用いたタンパク質の機能解析，クライオ電子顕微鏡を用いたタンパク質の構造変化の解析，生物発光を利用したタンパク質の相互作用解析について，最新の研究内容を含んだ内容となった。常に50-60人がリアルタイムで参加していた。本シンポジウムの進行はすべて英語で行い、

講演ごとに複数の質問が挙げられ、英語での活発な議論が行われた。講演者のトラブルもなく、全体的にスムーズに進行することができた。

タンパク質間相互作用、タンパク質の構造変化、細胞内オルガネラ間のコンタクトなどの解明に向けて、今回のシンポジウムで発表のあった研究手法を用いて新たな研究分野に発展することを期待する。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

今回のようなオンライン開催の場合は、オンデマンド配信によって同時刻のシンポジウムを後から視聴できたのはよい試みだと感じた。同時刻に興味のある講演が複数あることが多いので、対面での開催であっても、ビデオ録画などで他の人が後から視聴できるシステムがあるとよい。

ピックアップ演題は、講演者の所属だけではなく、ポジションも分かると、選定する際に役に立つのではないかと感じた。

< 2 S 3 > : A variety of photoreceptors and the frontiers of optogenetics/Symposium title

オーガナイザー：徳富 哲（大阪府立大学、PRESTO、東北大植物園）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

本シンポジウムは PRESTO 「光操作」研究領域との共催で、PRESTO 研究者の研究発表を兼ねて行った。Optogenetics などの光生物学分野の最先端の研究成果を発表することを目指したが、一方で講演内容が偏らないように PRESTO 研究者と、PRESTO 以外の研究者の方も invite してバランスを取るように心がけた。当方の Opening remark の際に一時パソコン画面上にトラブルが発生して、少し進行が乱れたがそれ以外は大禍なく進行して予定通り終えることができた。

- ・十分な議論ができたか

演題ごとに 5 分の discussion 時間を設け、演者の方も時間を守ってくださったので、discussion は行えたが、時間的には十分な議論ができたとは言い難い。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

海外の講演者は招待していない。

- ・Symposium pick up（取り入れた場合）は有効に機能したか

Symposium pick up は取り入れていない。

- ・参加者数はどのくらいだったか

参加者数は、開始時は 60 名程度であったが次第に増え、90～100 名程度で推移し最後の講演時にも 90 名を超えていた。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

本シンポジウムではタイムキーパーの表示や案内が無かったが、今後もしオンラインで行う場合には、パソコン画面上で時間をモニターでき警告音が聴けるようなシステムを導入して欲しいと考える。

< 2 S 5 > : An Integrated Multi-scale Approach for Studying Cyanobacterial Circadian Clock System

オーガナイザー：秋山修志（分子研）、上久保裕生（NAIST）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

概日時計は、24 時間周期での自律的発振、温度補償、同期という 3 つの生理的特徴を備えている。シアノバクテリアが概日時計研究の理想的な実験系とされるのは、時空間スケールと進化スケールを統合したクロススケール・アプローチ研究が可能となるためである。

本シンポジウムでは、時空間スケールと進化スケールの全部または一部を網羅する 5 名の研究者が講演した。シアノバクテリアの概日時計研究が、複雑で多様な振動現象から機能を損なわない範囲で冗長性を減らしていく「複雑性と多様性の単純化」に沿って進んできた経緯を踏まえつつ、分子・原子スケールに達した現段階で直面している（更なる単純化を阻む）課題を列挙して次ステージの方向性を議論した。

シンポジウムの告知だけでなく、上記議論を円滑に進める意図から BPPB 誌の C&P を執筆して事前公開し、Twitter 等の SNS も利用して宣伝を行った。

- ・十分な議論ができたか

議論するための時間は確保できたが、フロアを巻き込むかたちで質疑応答が盛り上がったかという点、必ずしも十分ではなかったと思われる。オンライン開催では質疑応答の相手が顔見知りになりがちであるため致し方ないかもしれないが、そのような環境においても、広い層からコメントや質問を引き出せるようにオーガナイザーやシンポジストが創意工夫する必要性を感じている。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

海外講演者は招待していないが、BPPB 誌の C&P を介して関係各所に告知した。

- ・Symposium pick up（取り入れた場合）は有効に機能したか

取り入れに賛同したが応募が無かった。

- ・参加者数はどのくらいだったか

約 50 名。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

次の機会があれば、オンラインを活かしたフロア参加型のシンポジウムを企画してみようと思っています

< 2 S 6 > : 蛋白質系の分子シミュレーションのサンプリング手法の発展 / Advances in enhanced sampling methods for molecular simulations of protein systems

オーガナイザー：光武亜代理（明治大学）、奥村久士（生命創成探究センター）

1) シンポジウムの開催記録

蛋白質系の分子シミュレーションに関するサンプリング手法の開発は、日本で世界にさきがけて約 30 年前から行われてきました。現在、国内の研究者が開発した方法が国内外の多くの蛋白質の分子シミュレーションソフトウェアに組み込まれています。本企画の際、蛋白質の分子シミュレーションに関して、独自のサンプリング手法を開発している国内の研究者の方に発表していただくことに留意しました。なるべくシニアから若い方まで年齢的なバランスを取るようにしました。学生、博士研究員発表枠に関しては、若い方に発表してもらう機会を増やすために多少趣旨が違っていても、分子シミュレーションをキーワードとして応募された方なるべく採用するようにしました。

日本で独自に開発されたサンプリング手法に関する研究を紹介しようと思いましたので、招待講演者は日本人のみでの構成になりました。博士研究員の発表枠で国内で研究員をされている外国の方の発表がありました。参加者の方に海外の方がいたらと思ったのですが、海外の方は少なかったように感じました。

また、学生、博士研究員発表枠に関しては上記の外国の方の発表の他に、学生の方の発表もありました。どちらの方も素晴らしい発表でシンポジウムを盛り上げてくれました。国際的な観点と若手を奨励するという観点から、学生、博士研究員発表枠はシンポジウムで有効でした。

参加者数は、おおよそ 70 名から 80 名程度でした。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

講演リスト作成の際に、講演者の発表時間を記述する項目があれば良いかと思いました。オンラインでの運営の方、大変だったかと思います。大変ありがとうございました。

< 3 S 1 > : オーストラリアー日本交流シンポジウム(ASB-BSJ Joint Symposium)

オーガナイザー：片山耕大 (名工大院工)

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

This symposium aimed at highlighting the current main stream topics in protein science and biophysics and also searching for the collaboration and development in research filed of biophysics in the Japan-Australia region.

Especially, we aimed to diversify our research fields and to have a tight interdisciplinary exchange without limiting our research content.

- ・十分な議論ができたか

In this symposium, we invited five up- and -coming young researchers as speakers who investigate lipid-protein interaction, RNA viruses, theoretical method, and chemo-optogenetics. Each of them presented a wide range of methods, which allowed for actively discussions that transcended the boundaries of disciplines.

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

By inviting two researchers from Japan and three overseas speakers from Australia, we hope that the high-level discussions will not only contribute to the promotion of internationalization, which is the goal of the Biophysical Society of Japan, but also provide impetus for the Kyoto International Conference on Biophysics to be held in 2023.

- ・参加者数はどのくらいだったか

Although this symposium was a morning session on the last day of the conference, there were about 30-40 participants.

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

・ The organizer's competence was also required, but the lack of getting questions from students during the Q&A session is a challenge for the future.

・ Due to the complexity of the registration system, speakers from overseas were not able to register within the time frame, and we hope that the registration system will be improved in the future.

< 3 S 3 > : タンパク質の水和とその凍結現象 –細胞凍結や食品保存への応用–

オーガナイザー：山本直樹（自治医大）、中川洋（原研）

1) シンポジウムの開催記録

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

タンパク質や生体分子の水和に関するトピックスは長年注目を集めている。しかし、まだまだ理解されていないことが多い。また水和水の凍結現象は食品保存などの産業応用の観点からも興味深い。これらのことを生物物理学会の方々に認知していただきたかったというのが目的である。生物物理学会には様々な分野の方がいるので、演者もできるだけ幅広い分野から集めるように心掛けた。

- ・十分な議論ができたか

内容をよく理解された聴衆の方から良い質問が出たという意味では議論ができたと思う。ただ、英語だとしても伝えたいことが伝わらず、効率の良いディスカッションができたかどうかというクエスチョンな部分がある意味で、十分ではなかった。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

日本在住の海外講演者は招待した。が、交流が図れたかどうかという疑問である。

- ・Symposium pick up (取り入れた場合) は有効に機能したか

上でも述べたように、あまり機能しなかったと思う。やはり言語が英語であるというのが大きいと思う。

- ・参加者数はどのくらいだったか

30-45 人くらいであった。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

発表言語を日本語に戻しても良いのではと思う。または、発表は英語でも良いが、質疑応答は日本語にしたほうが確実にディスカッションは活発化されると思われる。あるいは、AI などの自動翻訳システムを取り入れることによって、日本語で話しても英語の字幕が出るような、あるいは英語の翻訳が聞けるような（あるいはそれらの逆）仕組みを構築すべきではと思った。コロナ寡でオンライン発表が定着しつつある今、試みても良いのではと思う。

< 3 S 4 > : 統合的アプローチによるタンパク質の大規模ダイナミクスの探索 / Probing large-scale dynamics in protein through integrative approaches

オーガナイザー：斎尾智英(徳島大学)、井上倫太郎(京都大学)

1) シンポジウムの開催記録

タンパク質ドメイン運動を含めた大規模ダイナミクスは、タンパク質の機能と密接に関与しているが、未開拓の研究分野である。そのような状況を打開するために、タンパク質の大規模ダイナミクスを捉えることが可能な最近の測定手法の専門家である新進気鋭の五人研究者にそれぞれの測定手法の特徴及び、将来的な手法との統合的アプローチの可能性を講演頂いた。特に、本シンポジウムの開催の開催にあたり、現場に近い生の声を聴くことが異分野の研究者に将来的な参入には必要と思い、出来るだけ 40 歳以下の若手研究者に発表を依頼した。その結果、非常に細かな点に至るまで詳細な議論を展開することができた。また、本シンポジウムでは質疑応答に関しては日本語も可能とし、またシンポジウム終了後には総合議論の場を設けたが、それらの試みが白熱した議論に繋がったと考えられる。今回は、現地開催の可能性も応募時にはあったため海外の講演者の招待には至らなかったが、今後オンライン開催が見込める場合にはその利点を活かして海外の研究者も積極的に招待を行いたいと思っている。最終的には、土曜日の午前中であったにもかかわらず 80 名を超える参加者があり、非常に盛況であったと言える。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

出来るだけ、若手の研究者が積極的にシンポジウムの立案をできるような雰囲気を作りたい。

＜サテライトシンポジウム＞：アジア地区 PDB50 周年記念シンポジウム／PDB 50th Anniversary

Symposium in Asia

オーガナイザー：栗栖源嗣、藤原敏道（阪大蛋白研）

1) シンポジウムの開催記録

- ・下記の点などを中心に、シンポジウムの記録をお書きください。

高橋年会長に無理をお願いして、前日に 2 時間 30 分を超える 3 時間 30 分の枠を確保していただき、アジア地区の著名な構造生物学者を招き、シンポジウムを開催した。年會が始まる前日開催という点では、他のシンポジウムと競合することなく落ち着いて、時間的にも余裕をもって実施できた。

- ・シンポジウムの開催の目的、企画にあたり留意したことなど

午前中に蛋白研セミナーとしてのポスターセッションを併設し、午後に分野バランスと地域バランスを考えた招待講演を企画した。AlphaFold2 がホットな話題であったので、AlphaFold2DB を開発した EMBL-EBI の Sameer Velankar 博士に最後に講演をお願いした。

- ・十分な議論ができたか

最初はオンラインでも質問が多かったが、最後は疲れたのか質問が少なくなったのが残念であった。

- ・海外の講演者を招待したか、国内と海外の参加者の交流は図れたか？

韓国、台湾、中国、英国から招待講演をしていただいた。ポスターセッションにおいてもインド、韓国から多くの参加者があり、一定程度の交流は図れた。アジア地区のオンライン・シンポジウムという点では、時差の影響が少なくライブでの国際交流を行いやすかった。

- ・Symposium pick up（取り入れた場合）は有効に機能したか

採用していない。

- ・参加者数はどのくらいだったか

事前登録者は 300 名を超えていたが、平均した参加者数は昼から夕方まで大体 150 から 180 人くらいであった。参加登録無料にしたので気軽に登録・出席できただろう。

2) 今後のシンポジウムの運営に関する提案・意見など

生物物理学会には、PDB のデータ寄託者と利用者の両方がおられるので、今後も PDB 関係のシンポジウムを企画させていただきたい。Confit の株アトラスさんや、運営の株エーイー企画さんにも大変お世話になった。感謝申し上げたい。

多くの出席者のあるオンライン開催であったため、パネリスト以外の出席者は文字での質疑であった。口頭でも行えると、より活発な質疑ができたかもしれない。

(19) 第 59 会年会参加者アンケート結果のまとめ

年会終了直後に、参加者にアンケートを行った結果を次ページ以降にまとめた。アンケート結果を公開してほしいという意見が多くあったためと、いただいたコメントは今後の年会運営の貴重な情報となると考えたため、基本的に全ての意見を掲載した（ただし、特定の発表に関する否定的な感想などの意見は省いた）。アンケートの実施は 2021 年 12 月 1 日から 28 日までの間で、198 人の方に回答いただいた。

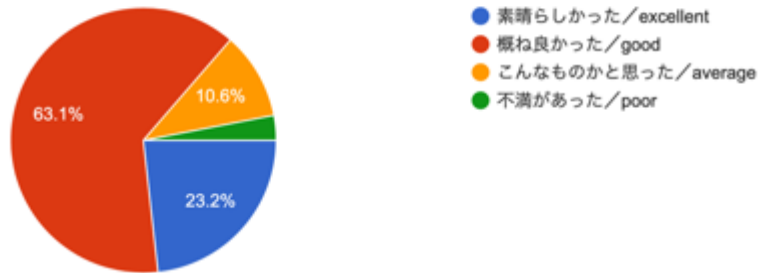
アンケート結果について、いくつかコメントしたい。第一に、回答者全員にかならず選択いただいた Q1（第 59 回年会の全般的な印象をお教えてください）について、素晴らしかったが 23%、おおむねよかったが 63%と、回答者の 8 割以上がポジティブな評価を下さったことを指摘したい。問題が多くあった年会ではあったものの、学会員の皆さんが前向きに評価くださったことに、感謝を申し上げたい。また、以下、否定的なコメントが目立つように感じられるかもしれないが、全般的な評価はよかったという前提で読んでいただきたい。

第二に、アンケートの個別コメントにおいて、年会運営に関する多くの問題点の指摘があったことを述べたい。これらは、年会実行委員会の対応の至らなさに由来する部分が多くあり、ご不快な思いをされた参加者の皆様には心からお詫びを申し上げたい。ただ、今後の学会運営を考えたときに、このアンケートに指摘された問題点に完全に対応することは、基本的にボランティアで運営に関わっている年会実行委員には荷が重すぎることを危惧している。今回の年会でも、参加者それぞれがトラブルに対応いただく本学会のおおらかな雰囲気に大きく助けられた。この雰囲気が今後も続くことを心から願っている。

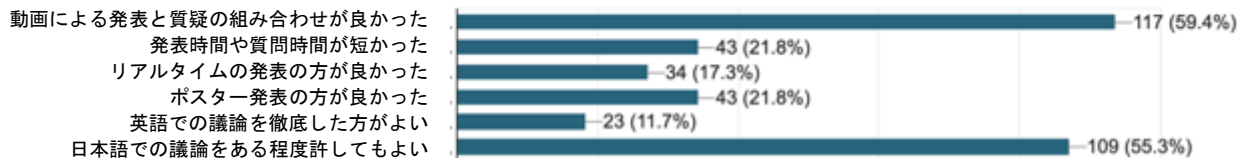
第三に、年会の使用言語について、英語での議論が表面的なものにとどまっていたという指摘が多くなされた。年会の英語化は本学会の基本方針であり、今後も変更するべきではない。オンライン開催であるために一般発表はすべて口頭発表としたが、英語だけで口頭発表の議論を進めるのは、2021 年の時点では難しい部分が残っていたという記録として本アンケートの結果を捉え、さらに何年か経った後に、英語による議論がより容易になっていることを期待したい。

第四に、テクニカルな理由により今回は対応が難しかった点も多くあったことを説明したい。Zoom に入室した参加者の音声が入りにくいこと、動画の分解能が悪かったこと、タイマー機能がなかったことなど、運営委員会でもいろいろ努力したものの対応できなかった問題が多数あった。Zoom の問題は、おそらく Zoom の設定のバグであり、実行委員会でもマイクオフ設定にするもののなぜか入室者は解除されるという状況にあった。動画の分解能や音声に関しても現場では対応できなかった。タイマー機能は、会場ごとに新たにタイマー係を設定すれば対応可能だったが、パソコンレンタルとアルバイト学生の手配数を二倍にすることは、予算的に難しい状況にあった。また、Zoom のアドオンである Blue sky timer というアプリを導入したが、動作に不安定な部分があり十分には機能しなかった。（文責・高橋聡）

Q1：第59回年会の全般的な印象をお教えてください。Please rate your general impression on the 59th meeting.
198 件の回答



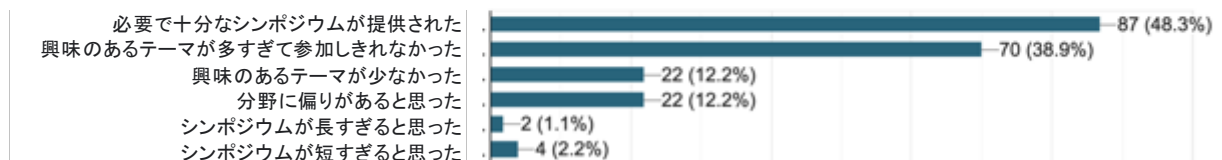
Q2：一般発表の形式についてどう思われましたか？（複数選択可）／What is your opinion on the style of the general presentations?
197 件の回答



他のコメント

- ・ほとんどの興味のある、似た分野の発表が自分の発表と同じ時間にあり、質疑応答に参加できなかった。分散させてほしい。
- ・The symposia were very good and professionally managed, but the oral sessions were less professional and definitely had much more Japanese used. Maybe 2 extra minutes for presentations is better as well.
- ・動画作成に手間がかかった
- ・英語での発表を強制することで、言語面の問題から他学会に比べて科学的な議論が交わってないように感じた。
- ・口頭発表の形式の場合は、英語ですべてやるしか無いと思いますが、ポスター発表があれば、日本語でも議論できるので学生の理解も充実するかなと思います。ただ、時間がかぶっていて見られないとか、審査員をしなければいけないで見られないとかそういう発表でもあとで動画を見られるのはとても良かったです。
- ・議論は日本語でやらないとダメ、程度が低くて学問レベルが低い
- ・動画を事前事後でも見ることができるのは素晴らしい。一方、英語での質疑応答はほぼ成立しないので、質疑応答は会期中にテキストベースで行った方がよい。
- ・スライドは英語としても、発表も日本語可にしたほうが質疑応答が活発になるのではないのでしょうか。

Q3：シンポジウムについてどう思われましたか？（複数選択可）／Please inform us your opinion on the symposia.
180 件の回答



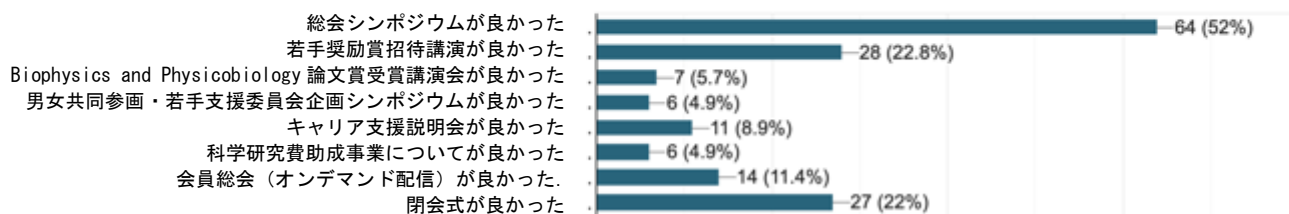
他のコメント

- ・Less international speakers in an online event. Next time I hope there will be more talks from outside Japan.
- ・There was not enough time for discussion after the symposia, and so maybe 30 extra minutes could be helpful for this.
- ・若手奨励賞招待講演は他と独立した日程だとお良かった。
- ・シンポジウムも録画にした方がよい。発表の質（内容ではなく発表方法や英語）が一般公演より悪いものが散見している。
- ・事前事後に動画が見れないのはとても不便なので、せめて録画配信してほしい。シンポジウムは以前より見たい演題が重なることが多く、不満がある。その解決のためにもぜひお願いしたい。
- ・見たいセッションが重なっていてオンデマンドで見れると伺ったが、視聴リンクが見当たらない
- ・タイムキーパー表示が各講演画面にあった方がよいと思いました。
- ・演者ごとの時間の目安を示してほしい

- ・シンポジウムのここの演者のアブストラクトも見たい。zoom の録画もポスター同様しばらくは公開してもらいたい。 そうすれば同時刻に開催されたシンポジウムも聞くことが可能である。
- ・日程上、否めませんが、同じ時間に裏番組が多すぎた感じがしました。

Q4：以下のイベントについて、ご意見をお伝えください（複数選択可）／Please inform us your opinion on the following events.

123 件の回答

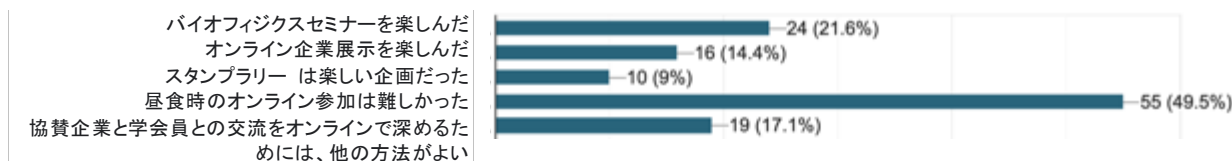


他のコメント

- ・Most of the career support events, reorganization of KAKENHI event are in Japanese, but those are also impact for non-Japanese speaking attendants.
- ・発表者が1人で時間中で喋り続けるよりは、座長と対談しながら講演が進む形だとより聞きやすく、演者も喋りやすくなるのではと思いました。
- ・Many of the other events were not in English, so I could not join.
- ・総会シンポジウムは話題が AlphaFold とタイムリーで、特に2番目の登壇者の方の発表がよく練られていて素晴らしかった。閉会式は中継が意外と面白く、とても印象的だった。
- ・最初の1.5時間弱しか参加できませんでしたが、大変勉強になりました。
- ・みなさんおっしゃってましたが、オンライン学会において男女共同参画シンポジウムを土曜日に持ってくるのが信じられなかった。これでは参加は難しい。
- ・口頭発表が多く、見逃しても後ほど確認できた点が良かった
- ・オンラインだと参加のモチベーションが下がり、見逃してしまった。

Q5：バイオフィジクスセミナーや企業展示について、ご意見をお伝えください... the on-line exhibition booths.

111 件の回答



他のコメント

- ・Many of the other events were not in English, so I could not join.
- ・時間がなくて参加できませんでした
- ・オンラインだと参加のモチベーションが下がり、見逃してしまった。

Q6：本年会はConfitを使用して運営しました。これについてご意見...our opinion on the Confit system.

185 件の回答

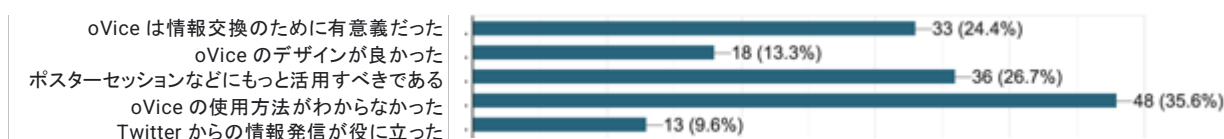


他のコメント

- ・As the presentations pre-recorded, it would be nice and should not be difficult to real-time update the current presentation number of each session.
- ・マイスケジュールが時間+チャンネルの表形式（プログラム集のような）で出力されると管理しやすい。
- ・質問コメントに対して返信があった場合に、質問者に通知がくるようにして欲しいです。
- ・コメントするにはスケジュールやいいねも公開しなければならないのが不便だった
- ・自分がコメントした発表に新しくコメントがついたら通知する機能が欲しい。質問に回答があるか見に行かないといけなの不便。
- ・time keeper 表示が有った方がよい。
- ・個人のスケジュールをあらかじめ決めていましたが、そこへ正確にたどり着くのに毎回苦労したり、聞き損ねたりした。リストを時間系列で作成し、決まった時間にクリッカーで会場間を自由に行き来させるツール（アイコン機能）が欲しかった。

- ・ There are too many Japanese instructions in Confit, so it was not easy for invited speakers from other countries to use the system.
- ・ Zoom の部屋ごと (分野ごと) のページだけでなく、その時間帯にちょうど行っている発表が何かわかるページがあれば使いやすかった (スケジュールよりも繰り上げて進行されていることがあったので)
- ・ 去年も書いたが個別の参加者にメッセージを送れる機能を実装してほしい。シンポや口頭発表後に oVice で議論を継続したくても、個別にメッセージを送れなければどうコンタクトすればよいかわからない。
- ・ いいね機能で関心を持たれていることが分かるのが嬉しかった
- ・ 動画の画質が悪く実験画像がよく見えなかった。
- ・ セッションごとに登録が必要な点が面倒に感じた
- ・ 私が使いこなせてないだけかもしれないが、コメントや返信の通知機能があるとよい。
- ・ 自発表にコメントがあった場合メールが来るのは便利だが、もっと便利にできるはず。他のシステムではシステム上で通知がもらえる。また、コメントに対する演者からの返答があった場合も返答がほしい。総じて、Slack と似たシステムにするとよいと思う。
- ・ upload した動画の質が少し悪い。同じ動画を北米神経科学会に upload したものと比べた。
- ・ シンポジウムの動画が有ったり無かったりするのがよく分からなかった

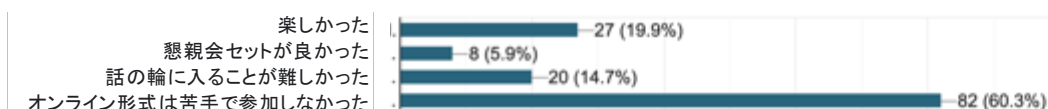
Q7: 本年会ではoViceを使って談話室、会議室、企業展示などを開... on the meeting Twitter account.
135 件の回答



他のコメント

- ・ ポスターセッションなどに oVice を活用すべきである / oVice can be used for poster sessions.
- ・ 会期中何度か oVice を覗いてみたがほとんど人を見かけなかった。
- ・ 予定が Confit ないタイムテーブルにも反映されると良いかと思います。
- ・ oVice は Confit からの動線が良くなかったほか、シンポジウムや口頭発表座長からの宣伝が不足していた。
- ・ twitter 使う意味があるのかわからない
- ・ oVice は初めてだった戸惑ったが、使えるようになってからは便利だと思いました。
- ・ なかなか企業展示に行くタイミングがとれなかった。
- ・ oVice で会話の輪に入れなかったので懇親会を撤退した人や忌避していた人を Twitter で見た。要改善。
- ・ 個人的には、gather.town の方がいい。どちらにしても confit は不必要では。

Q8: オンライン懇親会について、どう思われましたか? / Please inform us your opinion on the on-line banquet.
136 件の回答



他のコメント

- ・ 都道府県別や分野別など、場に工夫をいただいていたため、スムーズに話の輪に入ることができました。ご配慮に感謝いたします。とても楽しめました。oVice の操作に戸惑ったり、途中画面がフリーズして動かせなくなる等の問題もありましたが十分交流できました。感謝申し上げます。
- ・ 地域別などにする必要はなかったと思う。
- ・ 一次会@zoom から 2 次会@oVice へ移動するときに脱落者が多かったように思います。同じアプリで続けてやった方が脱落者は減るかもしれませんが。またオフラインの学会では懇親会に参加しないと晩御飯とお酒にありつけませんが、オンラインの学会では晩御飯を用意した家族がすぐ後ろで待っていたりします。分野の垣根を越えて学会参加者が交流することが懇親会の重要な機能なので、むしろ昼間の oVice の談話室の利用を積極的にアピールするのも良いかもしれません。昼間のポスター会場ロビーでの立ち話はオフラインの学会に参加する大きな楽しみのひとつです。
- ・ It was not in English, so I could not join.
- ・ 時間帯の問題で参加できなかったが、できれば参加したかった
- ・ oVice で全体連絡表示中に個別会話が困難で、開催時間のうち半分くらいしか有効に活用できなかった。
- ・ 金曜夜からの時間では子育て世代には参加はほぼ不可能。オンライン学会で懇親会に参加できなかったことがない。
- ・ あることに気がつかなかった
- ・ 参加者が多数ですから、参加者のリストが表示でき、chat/talk したい人をすぐに見つけられるような工夫が必要。
- ・ 表示名だけでは誰なのかわかりにくいと思った

Q9: 第 59 回年会についてのご感想やご意見、今後の年会運営についてのご希望をお伝えください

- ・ 次年度もオンライン学会の場合、一般発表はポスター形式を希望します。
- ・ シンポジウムの録画を後から見られるようにして欲しいと思った。

- ・動画での発表は手間、聴講中に撮影が可能、質疑が盛り上がらない等の観点から大変不満であった。
 - ・今回の形式だとディスカッションしづらいので、ブレイクアウトルームを割り当てる形式のがよかったと感じた。
 - ・一般発表の動画形式は、臨場感に欠けるので、リアルタイムでの発表の方が良かったのではないかと思います (動画の方が時間をコントロールしやすいのは分かります)。また、発表動画の音の大小が様々であったり、最初から上手く流れていないケースも少し見受けられました (アルバイトスタッフの方は皆不慣れなようでした)。
 - ・シンポジウムの発表者にはきちんと準備をするように伝えてほしい。
 - ・結局日本語の説明が入っているスライドが楽に見れてよかったので、英語で討論するにしても日本語の説明を簡単にでも入れるべきだと思う。
 - ・次回からは是非対面 (海外参加者などのオンライン参加共用) で実施してほしい。
 - ・フランクに議論できる雰囲気でした。新しい試みに絶えない進化する学会で次年度も楽しみです。ありがとうございました。
 - ・ほとんど日本人の参加なのでそこまで英語にこだわる必要はないと思いました。
 - ・やはり直接ディスカッションができるほうが良いと思いました。口頭発表はオンラインでもあまり変わりませんが、ポスター発表は時間をかけて深く議論できる場合があります。しかし、昨年のようにコメントや質問だけ書き込むタイプはあまり良くないので、やはりポスターの発表は直接ディスカッションできる形が良いかなと思います。新型コロナの感染状況、ワクチンの効果、抗ウイルス薬の開発次第だと思います。
 - ・来年、別の学会を完全オンラインで運営するので、とても勉強になった。なお、このアンケートの結果は公開してもらえないのでしょうか。参考になるので、していただけると大変ありがたいです。セッション間でCMを流していたのは (運営観点で) 良いアイデアと思ったが、休憩時間が長いので、思ったほど人が残ってなかったのではないかと心配になった。一つのシンポジウムの時間が長いので、途中で休憩を入れてそこで強制的に流すのはどうか。
 - ・ポスター発表よりも動画形式のほうがスムーズに議論できた点が良かった。時間的に短かったため、可能なら枠を増やしてゆっくりと発表できたほうが良いと感じた。
 - ・コロナウイルス禍が続くという難しい状況での運営だったと思いますが、関わられた皆様、本当にありがとうございました。
 - ・オンラインでもきちんと各セッションでの発表が整備され、とてもありがたかった。アルバイトの方も運営の方もお疲れ様でした。居住地とライフイベント上の関係でコロナがなくてもオフライン参加が難しいため、これからもオンラインを併用して欲しいです。
 - ・ミトコンドリアが多すぎる気がした。テーマが偏らないとありがたいです。
- 発表時間が短すぎた。特に、知り合いの少ない学生などは3分しか質疑がなく気の毒だった。発表件数が多く、午後後半のセッションの終了時間が遅いのも不便を感じた。今後もオンラインで開催する場合、発表件数が多いならoViceなどを利用したポスター発表の方が議論の時間が確保できてよいと思う。
- ・ Instead of using CONFIT and Zoom, why not use Gather.town?
 - ・ It was really nice experience in an online platform
 - ・ 大会 Web サイトが複雑でどこを見て良いかわからない。
 - ・ 日本語での発表を認めたほうが良い、言語面の問題から他学会に比べ、科学的な議論ができていない
 - ・ In next meeting, I hope there are more sessions having more speakers from outside Japan in the occasion of online-meeting like this.
 - ・ 今年度もオンライン開催となりイレギュラーな形にはなりましたが、素晴らしい年会をありがとうございました。運営に携われた全ての皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。
 - ・ 土曜日に一般発表を行なったが、休日は参加者も非常に少なく、避けた方が良いと強く感じた。私のセッションでは、座長とスタッフ、発表者がいるのみであったように思う。

・口頭発表で、英語が分からないから答えらずに3分が過ぎてしまうのは本質的ではないと思うので、英語の議論を徹底するよりは、日本語を許容して「議論すること」を重視する方が良いのではないかと思います。

・オンラインならではの様々な工夫がされていて、非常に充実していて満足できる年会でした。運営に携わった皆様方に感謝申し上げます。

・ウェブ開催形式の工夫をずいぶんなさったと思います。自分で発言する機会がなかったのも、ウェブ開催で全く問題ありませんでした。対面形式よりも楽でした。

・興味深い講演がたくさんあり、とてもよい学会だったと思う。今回、一般発表の講演番号には、講演開始予定時間がついており便利だと感じたが、シンポジウム講演には同様の記載はなかった。シンポジウム講演では、講演時間が一定でないのと、とくに、講演ごとに、講演開始予定時間や講演時間がプログラムや学会サイトにかいてあった方がよいと思う。ほかの部屋の講演と行き来したい場合に、目安の時間がわかると便利である。ちなみに、一般発表の時間は合計すると14分だったが、時間の勘定もしやすくきりのよい15分でいいのではないかと思います。日本物理学会では1講演15分で定着している。日本物理学会の会員も多いと思うので、蓄積されたノウハウは生かすようにすればよいのではないかと思います。一般発表の動画アップロードは手間がかかるので、当日のライブの方がよいと思う。動画をあとで視聴できることは大変よいと思うので、ライブを録画するのがよいと思う。一方、シンポジウム講演で録画をしていたのに、後日、動画の公開がないケースがあったが、録画を公開するかどうか、事前にわかった方がありがたい。録画をしているので別の講演を開きに行ったが、後日録画が公開されなくて話を聞けず、残念に思った講演が複数ある。質疑応答の使用言語については、サイエンスを優先するのであれば日本語でもよいのではないかとはいえ、議論が必要だと思う。

・今回の形式では、研究室での実験や申請書・論文執筆の片手間に学会に顔を出すという形になる。会場に出かけて参加する従来型の方が、研究室から切り離されるゆえ、スッキリ諦めがついて専門外のセッションなどにも顔をだして聞こうという気分になる。オンライン開催にしても現地開催にしても一長一短があるように思いました。

オンライン学会はあまり集中して参加することが出来ない。

・対面、オンライン、双方にメリット・デメリットがあって、理想的にはハイブリッドなのかなと思いましたが、運用面では大変かと思います。ポスターは対面の方が良いかもしれません。

・Thank you so much for your efforts!

・年会運営のご尽力下さりありがとうございます。Confitは使い勝手がよいと思います。

・対面での開催とはならなかったのが残念でしたが、楽しかったです。運営は大変だったかと思いますが、どうもありがとうございました！

・実行委員会のみなさま、大変おつかれさまでした。来年は対面で出来るのが一番良いですが、もし駄目なら今年の反省を生かしてオンラインでもさらにインタラクティブな会にして頂けたらと思います。

・口頭発表に登録し、事前に動画を提出した。何度もweb上で動画、音声に問題ないことを確認したが、本番Zoomでなぜか音声が出なかった。そこで座長から動画に合わせてその場で発表をしろという無茶振りをされた。そんなことすぐにはできませんか？そういったトラブルがあった時の対応は考えられていたのでしょうか？そもそも事前にZoom上で確認しないのですか？問題があれば再提出できる時間は十分あったはず。一週間以上も前に動画を提出しているのですから。たかだか8分間ですが、こちらはそれなりにしっかり準備をするのです。非常に、不愉快な学会でした。

・来年度はなるべく対面で参加したいが、オンラインとの並行でも良いのかも知れませんが

・年会の運営をありがとうございました。Confitの会議システムも使いやすく、スケジュールが容易でした。閉会式のライブ配信では、リアル会場になる予定だった会議場を見せていただいたり、次期年会長の金城先生がサプライズでご登場されるなど、とても楽しく拝見いたしました。誠にありがとうございました。

・開催後も動画視聴が出来るのは本当にありがたいです。時間や地理的な制限なく参加できる今回の開催形式はメリットも大きかったので、コロナ禍が明けてもうまくオンラインとオンサイトとを共存していただければありがたいと思

いました。

- ・オンラインで有意義な時間を使えたかと思います。次回はそろそろ現地開催が良いですね。
- ・一般発表の動画はしっかり内容を聞いたので良かったです。
- ・動画提出に関する連絡をはじめ、発表にかかわる連絡が遅すぎるように思った。また、口頭発表の質疑で画面シェアが許可されているにもかかわらず、許可されず、苦慮する学生が見られた。学生発表賞の候補者だったので、可哀想に思えた。運営側の事務連絡を徹底すべきであったと思う。閉会式の中継は、音声が悪すぎた。締まりがない感じになり、非常に残念に思えた。
- ・仕事と重なって充分に参加できなかったことが残念でしたが、合間を利用できるオンライン学会も良いと感じました。内容の濃い年会にして下さりありがとうございました。参加するたびにメールが届くのが煩わしく感じておりましたが、勤務先より当日参加が判るものの提出を求められ、そのメールのプリントアウトが役立ちました。
- ・英語のレベルが低く、質疑応答がほとんど成り立っていない。聞くのも辛い。日本語で深く議論する習慣を付けないと若手が育たないと強く感じた。
- ・大変な状況のなか周到なご準備をいただき、大変ありがとうございました。今後コロナが収束しても、出張費が捻出できない研究者&学生でも気軽に参加できるオンライン学会の形式は残っていくと思います。今回の運営の皆さんの試行錯誤が、多様な研究者&学生が参加できる学会への進化にきっと役立つと確信しています。
- ・今回は講演中、聞き手はカメラをオフにするようにアナウンスがありましたが、オンライン形式ですと皆さん顔をだして参加された方がより活発な議論になると思います。次回以降ご検討をお願いいたします。
- ・ Thanks for providing such nice experience.
- ・提出した発表動画の画質が劣化しており、発表に支障をきたしている発表者もいた。あらかじめ最終的な画質の情報を教えてほしかった 次回は zoom 入室時にマイクオフになる設定を徹底してほしい
- ・オンラインのいいところと悪いところが見えてきた気がします。集計が大変かもしれませんが、そういう自由記載の意見を集めて、改良する努力が必要だと思います。考え方の多様性とシステムの充実度を分けて評価してください。
- ・2020 年の学会に比べて、各段に質が上がった。ポスターが動画になったのが良い。シンポジウムや動画セッションを簡単に移動できたので、興味のある部分を視聴できた。
- ・シンポジウム動画もオンデマンドにして動画の公開期間をもっと長くしてほしい
- ・予算はかかるが、シンポだけでもハイブリッドで行えるとより幅広い参加が可能な気がする。分生に現地参加したが、ポスターは現地在場が圧倒的によく、シンポや WS も現地在場が良かったのだが、オンラインでも参加できると幅が広がるし、実際に用務や予定で現地だったら無理なものが発表・参加できたこともあるのでいくつかのセッションだけでもハイブリッドだと嬉しい。web 側の予算の問題は、発表者だけ zoom アカウント教えるとか、WS・シンポごとに売り出して購入者にメールで伝えるとか、web ページを使わない方法もあると思う。web ページで行う場合も、confit レベルであれば単なるベーシック認証とさほど変わらないので、年会 web に暗号化された zoom リンク集ページを作るだけでも対応可能と思う。GAS を使ってアクセスした人のアカウントを支払者と対応させることもできるとも思う。
- ・前年度よりもオンライン年会の仕組みが改善したと感じた。ただ、全て口頭発表だと講演と質疑応答の時間が短くなるので、各時間帯の最後に議論用の buffer 時間を取り、有志は残って議論を継続できるようにするなどの工夫はあってもよかったかと思う。一部はポスターも取り入れた方が良いかもしれない。
- ・英語をしゃべることのできない会員が大多数であることを直視して、現実的な改善を行ってほしい。英語での議論を聞いていても共感性羞恥や文法発音のミスばかり気になり、全く科学的な議論に集中できない。総じてつまらない。自動翻訳は発言をリアルタイムで外国語に翻訳可能なレベルに近づきつつあり、そこに突破口があるかもしれない。あるいは、英語にこだわるならば議論はテキストベースにした方が良い。
- ・無理にすべて英語発表にする必要は無いと感じた。スライドのみ英語で説明は日本語にすれば良いと思う。

・平行セッションをあとからビデオで観るために、動画の保存期間を 12 月 10 日までよりももっと長くできれば助かります。バイオインフォマティクスの国際会議 ISMB2021 では約 3 か月視聴できました。撮影（画面キャプチャー）ももし講演者が許せばなるべく可能としていただければ助かります。

・ It would be useful if all symposia would be deposited in the confit system, to have the opportunity to also view the talks later (especially if being at another session at the time). Furthermore, I am not sure if the prerecorded talks or posters are the better way for the general presentations. I had the impression that more information could be delivered via the talks compared to posters, but if not too familiar with the topic, it was sometimes a bit difficult to follow. In case the short talk format should be kept for the general presentation (in case next year will be an online event again), I would keep it prerecorded, as in real-time the short time limit may cause problems with keeping the time, also preventing the last speakers to have audience who already joined the next symposium of interest. on-line 学会はあまり参加したくない、という感想です。一般発表の質疑応答時間が短く、慌ただしかったです。

・初めての学会参加であったため良い経験になりました。

・とても良いでしょう。今後の年会運営を楽しみにしています

・総会シンポ（構造予測の話）はとても興味深く楽しく聞けました。もう少し時間長くてもよかった。一般発表は時間と場所を決めてくれて良かったです。メリハリつけて聞けたし質疑応答もできたので。ただ、一般発表は発表、質疑応答とも日本語で実施しても良いのではないのでしょうか。

(20) 添付資料

添付資料 10-1：第 59 回日本生物物理学会シンポジウムアルバイトマニュアル最終版(1122)

第59回日本生物物理学会 マニュアル（最終版）

シンポジウム アルバイト

*講演は英語で行います。

*シンポジウムはZoomのミーティング機能を用いたリアルタイム発表で行います。

*緊急連絡先は以下になります：第59回日本生物物理学会年会事務局

Tel: 080-4137-9158 E-mail: jbp2021@aeplan.co.jp

1. 開始前

- シンポジウムではアルバイト1名と座長全員がホスト・共同ホストとなります。
またアルバイト会場には実行委員が複数名待機し、アルバイトのサポートを行います。
- プログラムで自分の担当シンポジウムの座長、発表者を見ておいて下さい。
Zoomの基本的な操作 (共有設定、挙手ボタンなど) も理解しておいて下さい。
- アルバイト会場は、東北大学多元物質科学研究所 材料・物性総合研究棟1号館 1F大会議室（さくらホールの先隣（隣の隣）の建物（E03））になります（右記地図を参照）。北側の入口は鍵がかかっており、南側の入口から入って下さい。鍵がかかっている場合は、上記の緊急連絡先に電話して下さい。
- シフト出欠表にあるアルバイト
開始時間に遅れないように来て
下さい。また、会場に用意して
ある出欠表の自分の担当時間の
箇所に出欠確認のサインをして
下さい。



- マイアカウントの左のサイドメニューにあるミーティングをクリックします。今後のミーティングにセッション・シンポジウムのリストがでてきます。その中から担当するシンポジウムを選び、開始を押します。ホストとしてZoomに入り、シンポジウムが開始されます。

- Zoomに参加する際には、アルバイトと認識できるように「Staff」として下さい。カメラ・マイクオフにして下さい。

- Zoomに入室後、PC内にある幕間広告の動画を共有設定で流します。

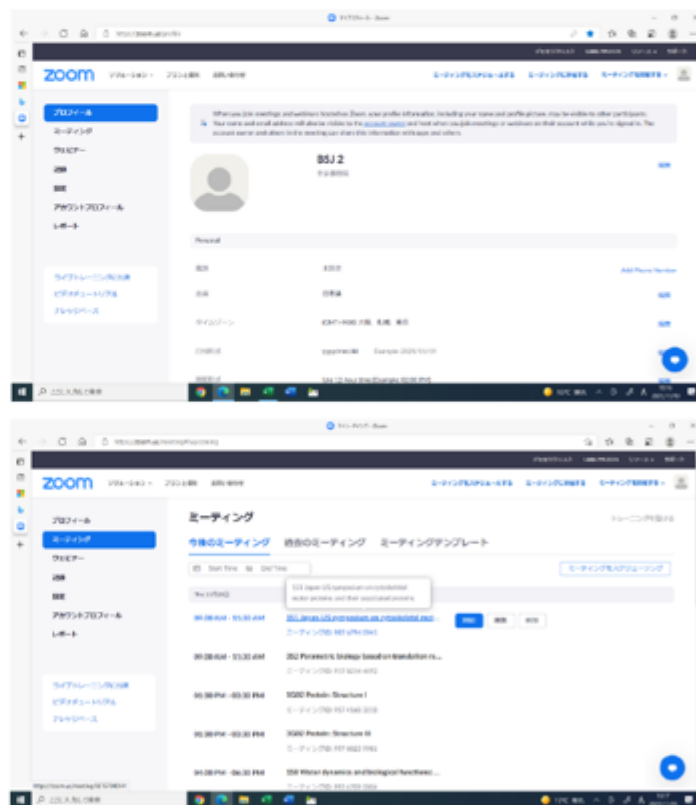
- 幕間広告の動画は、開始20分前には流すようにして下さい。

- 開始前に、質問がマイクを使って直接、またはチャットを通してあるかもしれませんが。その時は、自分で返答できる場合は、マイクまたはチャットを使って答え、返答が難しい場合は、待機している実行委員に訊いて下さい。

- 開始10分前になったら、幕間広告の音声をオフにし、座長と発表者全員の入室確認を行います。カメラ・マイクオンにし、マイクで「発表番号XXXのXX先生」「座長のXX先生」と呼びか



担当セッションのページの例。タイムテーブルで担当セッションをクリックすると現れます



Zoom の画面。マイアカウントの画面(上)、ミーティングの画面(下)。

けて下さい。未だ入室していない場合は少し待ち、それでも来ない場合は、待機している実行委員に連絡して下さい。確認が終わり次第、幕間広告の音声をオンにします。また、各発表者の発表時間は座長・シンポジウムオーガナイザーが決めています。座長から各発表者の発表時間を聴いて下さい。

- 開始2分前に幕間広告を終了します。
- Zoom上で時計表示は行いません。座長とアルバイトが時間を測って進行します。
用意されているストップウォッチを使って時間を測ります。

2. 開始後

- 開始時間になったら、「シンポジウムを始めて下さい」と座長に声をかけ、カメラ・マイクオフにします。シンポジウムの録画を始めます（クラウド上に保存します）。
- 座長が、演題と講演者を紹介します。発表者が画面共有を行い、発表が始まります。ストップウォッチで時間を測ります。
- 発表終了後、質疑応答があります。この時間帯は特にすることはありませんが、時間を測り続け、またトラブルがあった場合に対応します。
- 座長も時間を測り進行していますが、明らかに進行が遅れている時は、座長に「時間超過していますので終了して下さい」とチャットを通して連絡して下さい。
- 質疑応答終了後、次の発表に移ります。座長が、演題と講演者を紹介します。発表者が画面共有を行い、発表が始まります。ストップウォッチで時間を測ります。
これらの一連の作業をシンポジウムが終わるまで繰り返します。
- 座長のシンポジウム終了のアナウンス後、シンポジウムの録画をストップします。

3. その他

- 出欠表の予備の方も会場に待機し、補助や買い出しなどを行います。
- アルバイト開始から終了まで、昼休みの時間を除く全ての拘束時間に対して時給が発生します。
- アルバイト代は、各自の最終勤務日に現金で支給されます。帰宅する前に、アルバイト代の受け取りを忘れないようにしてください。
- 当日参加できなくなった場合は、できるだけ早く実行委員会に連絡して下さい。

- 各セッション・シンポジウムでPCが割り振られ、チャンネル番号（Ch）が書いてあります。自分の担当のチャンネルのPCに着席して下さい。
- PC付属のヘッドセットを使って下さい。アルコール消毒シートも各PCで用意しています。適宜使って下さい。
- 一般講演では、Zoomのホストになり、生物物理学会のオンラインのHP (Confit) 内にある動画をPCで再生し、Zoomの共有設定でその動画を参加者に流します。
- まず、Confitにログインします。ログインされていない場合は、各PCで与えられたConfit用のIDとPWからログインして下さい。
- ConfitのHPのサイドメニューから日付を選び、その日のタイムテーブルセッションのページに移ります。



ログイン後の Confit の HP の画面

[illegible]

タイムテーブルの例

- 開始10分前になったら、幕間広告の音声をオフにし、座長と発表者全員の入室確認を行います。カメラ・マイクオンにし、マイクで「発表番号XXXのXX先生」「座長のXX先生」と呼びかけて下さい。未だ入室していない場合は少し待ち、それでも来ない場合は、待機している実行委員に連絡して下さい。確認が終わり次第、幕間広告の音声をオンにします。
- 開始2分前に幕間広告を終了します。
- Zoom上で時計表示は行いません。座長とアルパイトが時間を測って進行します。用意されているストップウォッチを使って時間を測ります。
- Zoomで動画が直ぐ流せるようにPCを担当セッションの最初の講演の動画の箇所にして下さい。

2. 開始後

- 一般講演は発表動画8分+リアルタイム質疑3分です。
- 開始時間になったら、「セッションを始めて下さい」と座長に声をかけ、カメラ・マイクオフにします。
- 座長が、演題と講演者を紹介したら、共有設定を使って、Zoom上で当該講演の講演動画を流します。その後、ストップウォッチで時間を測ります。
- 動画が終了したら共有設定を解除します。
- 動画終了後、質疑応答があります。この時間帯は特にすることはありませんが、時間を測り続け、またトラブルがあった場合に対応します。Zoomで動画が直ぐに流せるように、PCの画面を次の講演の動画の箇所において下さい。
- 座長も時間を測り進行していますが、明らかに進行が遅れている時は、座長に「時間超過していますので終了して下さい」とチャットを通して連絡して下さい。
- 質疑応答終了後、次の発表に移ります。座長が、演題と講演者を紹介したら、共有設定を使って、Zoom上で当該講演の講演動画を流します。その後、ストップウォッチで時間を測ります。これらの一連の作業をセッションが終わるまで繰り返します。



セッションの動画の箇所の例

- 午後の前半の場合は、幕間広告をZoomの共有設定で流し、午後の後半の担当と変わります。

3. その他

- 出欠表の予備の方も会場に待機し、補助や買い出しなどを行います。
- アルバイト開始から終了まで、昼休みの時間を除く全ての拘束時間に対して時給が発生します。
- アルバイト代は、各自の最終勤務日に現金で支給されます。帰宅する前に、アルバイト代の受け取りを忘れないようにしてください。
- 当日参加できなくなった場合は、できるだけ早く実行委員会に連絡して下さい。

添付 11-1：若手奨励賞授賞式・懇親会進行表

若手奨励賞授賞式進行表

時間	進行	所要時間	内容	備考
18:45	懇親会担当ログイン			南後、中村、鎌形、西、真壁
	設定		ホスト設定など	共同ホスト：真壁、南後
19:00	開始		開始	進行 真壁
19:01	学会長挨拶	5分	挨拶	野地博行先生
19:06	受賞者発表	5分	受賞者～5名の発表と講評	副会長 今田勝巳先生
19:11	受賞者スピーチ	10分	研究内容とコメント	受賞者
19:21	受賞者集合写真	1分	画面キャプチャー	受賞者はビデオON、参加者には音声ONで拍手の音や掛け声を。撮影は南後、中村、鎌形
19:22	全員集合写真	1分	画面キャプチャー	参加者全員ビデオON。撮影は南後、中村、鎌形
19:23	oViceの使い方	7分	使い方説明	西。説明後oViceへ誘導。中村、鎌形、先にoViceへ移動
19:30	oViceへ移動			全員退出まで真壁待機。

※ Zoom 1chのバイトは19時までなので、それまでにホスト移動。先に撤収されないように要確認。

※ 受賞者の情報を開始前までに、懇親会担当で共有。

※ 受賞者発表時の賑やかしは、実行委員にマイクONでの拍手をお願いする

※ 時間は目安。少し押ししても問題ない。

懇親会進行表

時間	進行	所要時間	内容	備考
19:20	懇親会担当ログイン			先に中村、鎌形。Zoom後に南後、西、真壁
	設定		メガホンなど確認	
19:30	開始	15分	開始	進行 中村
	参加者ログイン		参加者の設定待ち	西を中心にメガホン、ヘルプデスクで対応 練習も兼ねて雑談を促す
19:45	年会長挨拶	5分	挨拶	高橋聡先生
19:50	地域別懇親会	30分	地図の上で懇談	きっかけ（手本）として、まずは運営委員にゆかりのある地域に移動してもらう
20:20	次年度年会長挨拶	5分	挨拶	金城政孝先生
20:25	分野別懇親会	30分	分野別テーブルで懇談	地域別懇親会と同様
20:55	終了			

※oViceのアカウント名を「実行委員（名前）」としてアイコンを「BSJ2021」にする

※19:20-19:45は実行委員は全員ヘルプコーナーにいてトラブル対応

※ヘルプコーナー担当：20:00～20:30 南後、20:30～21:00 真壁

※19:40、20:10になったら実行委員はヘルプコーナーへ

※高橋先生、金城先生には、挨拶の5分くらい前にヘルプコーナーでミーティングポイントにつないでいただく

※懇親会当日、多元研に集まるかは1日目の様子を見て決める（真壁先生は山形から参加）

※実行委員はリアル拍手（作業環境的に拍手しづらければoViceの拍手も使えそう）

2021年 9月 吉日

オンライン生物物理学会 ご参加の皆様へご案内

拝啓 時下ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今回のオンライン生物物理学会懇親会開催にあたりまして、お酒とおつまみの特別セットをご用意いたしました。同じお酒を召し上がりながら、お話に華を咲かせてください。

お酒と、おつまみのセットでお届けします。

お値段 2,980円(消費税込) + 送料一律900 円

ご購入希望の方は、添付の注文書にご記入の上、「石越醸造」メールまたはFAXにてご注文ください。

Mail:sawanoizumi@ar.wakwak.com(FAX:0228-34-2304)

注文受付期間:9月24日(金)～11月12日(金) (11月12日がお振込み期限となっております)

【セット内容】

お酒 (生物物理学会年会オリジナルラベル付き)

NHK朝ドラの舞台である登米市より

石越醸造の澤乃泉飲み比べセット

※以下の2本が含まれます

- ・澤乃泉特別純米酒 300ml 1本
- ・澤乃泉本醸造 300ml 1本



+

おつまみセット

下記A、B、Cの中から1つお選びください



三種おつまみセット A

- ・燻りほや
- ・燻り牡蠣
- ・たこのやわらか煮
- ・金華さば味噌煮缶詰



三種おつまみセット B

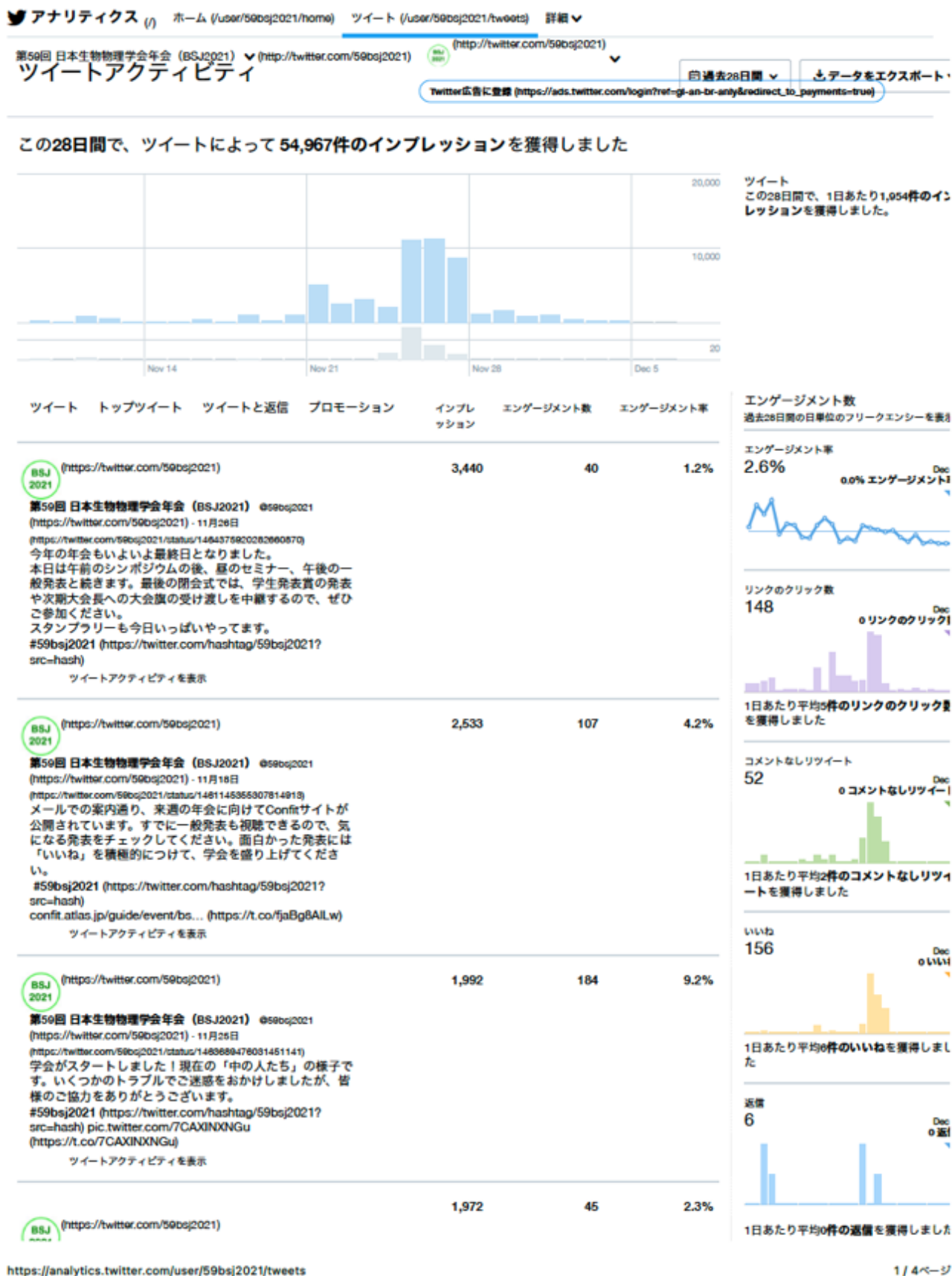
- ・燻り牡蠣
- ・牡蠣のしょうが煮
- ・牡蠣の味噌煮
- ・金華さば味噌煮缶詰



三種おつまみセット C

- ・あなご醤油煮缶詰
- ・まぐろ尾肉水煮缶詰
- ・金華さば味噌煮缶詰
- ・金華さば水煮缶詰

添付 14-1 : Twitter: @59bsj2021 (113 フォロー中、150 フォロワー) のツイートアクティビティ



BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	1,751	94	5.4%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月24日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1463654221685821447) 第59回生物物理学会年会の初日がいよいよ開始です！オンラインではありますが、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。午前中のセッションは9時スタートです！ ツイートアクティビティを表示</p>				
BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	1,494	31	2.1%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月11日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1458589761689500928) 年会開催まで2週間となりました。発表動画の登録、懇親会セットの申込、高校生向けWSの申込は明日(11/12)が締切です。 発表者やPIの方は #59bsj2021 (https://twitter.com/hashtag/59bsj2021?src=hash) を付けて、是非ご自身の発表をアピールしてください。 www2.aeplan.co.jp/bsj2021/ (https://t.co/NTXddC0vge) ツイートアクティビティを表示</p>				
BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	1,457	40	2.7%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月26日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1464119515554279424) 懇親会 第一部の「若手奨励賞授賞式」では、受賞者スピーチ、集合写真撮影、oViceの使い方説明などがあります。 懇親会 第二部で使用するoViceに関するご案内がありますので、可能な限り若手奨励賞授賞式からのご参加をお願い致します。 @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) ツイートアクティビティを表示</p>				
BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	1,429	31	2.2%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月25日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1464013016638229954) チャンネル07：2S7 シンボジウム 生体膜機能の人工制御 化に有用な新アプローチと生物物理応用 confit.atlas.jp/guide/event/bs... (https://t.co/5K9sUexr6U) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) ツイートアクティビティを表示</p>				
BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	1,373	92	6.7%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月26日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1464055150738165765) 現在対応してもらっており、次のセッションから変更されると思います。 ツイートアクティビティを表示</p>				
BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	1,174	23	2.0%

BSJ 2021	<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) · 11月27日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1484445375478128641)</p> <p>午後の一般発表 (その2) 13:30~</p> <p>[3G08] 細胞生物:計測・イメージング</p> <p>[3G09] 細胞生物 III</p> <p>[3G10] 生体膜・人工膜IV</p> <p>[3G11] 応答タンパク質:細胞</p> <p>[3G12] ゲノム生物学IV</p> <p>[3G13] 計測VI</p> <p>[3G14] 計測VII</p> <p>ツイートアクティビティを表示</p>	1,061	20	1.9%
	<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) · 11月27日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/148444572312725510)</p> <p>午後の一般発表は13:30からです。最後まで刺激的なサイエンスを楽しみましょう。</p> <p>また、15:40からは閉会式が開催されます。学生発表賞の発表もあるので、忘れずにご参加ください。</p> <p>ツイートアクティビティを表示</p>	1,029	48	4.7%
BSJ 2021	<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) · 11月24日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1483346364409630378)</p> <p>明日から年会スタートですが、準備はお済みですか？注意事項の再確認やconfitのチェックを改めてお願いします。</p> <p>また、今学会では臨場感を少しでも上げるため、懇親会や企業展示に"oVice"を導入しています。使い方の練習も兼ねて、事前にスタンプラリーなどで体験しておいてください。</p> <p>@59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021)</p> <p>ツイートアクティビティを表示</p>	999	21	2.1%
	<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) · 11月26日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1484119596110151681)</p> <p>懇親会 第二部の「oViceを用いた懇親会」では、年会長ご挨拶、地域別懇親会、次期年会長ご挨拶、分野別懇親会があります。</p> <p>ぜひご参加いただき、みなさまで盛り上がりましょう！</p> <p>@59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021)</p> <p>ツイートアクティビティを表示</p>	959	29	3.0%
BSJ 2021	<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) · 11月24日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/148334636823035393)</p> <p>oViceの「談話室」にはConfitから入れます。学会中、休憩スペースとして雑談したり、「会議室」に集まってる研究打合せなどに使ってください。</p> <p>さらに、「企業ブース」では「スタンプラリー」を開催しています！地酒などの豪華景品も用意しているので、ふるって応募ください。</p> <p>ツイートアクティビティを表示</p>	868	92	10.6%
	<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) · 11月27日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1484477839156133994)</p> <p>15:40から閉会式が開催されます。学生発表賞の受賞者を大勢で祝福しましょう。来年度の開催に向け、大会旗の引き渡し式もあります。</p>			

ツイートアクティビティを表示

BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	839	17	2.0%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月27日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1464421719820390812) 午前中のシンポジウムはお楽しみいただいたでしょうか？ 今日のお昼のセッションは3件で、12時スタートです。 BPセミナーではスタンプラリーにも応募できます。 #59bsj2021 (https://twitter.com/hashtag/59bsj2021?src=hash)</p>				

ツイートアクティビティを表示

BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	820	17	2.1%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月28日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1464058732633230648) 本学会の“企業ブース”では「スタンプラリー」を開催しています！地酒などの豪華景品も用意しているので、ふるってご応募ください。 企業ブースは“oVice”にあります。 なお、スタンプラリーはBPセミナーでも行われます。周りの人も誘い合わせの上、多数応募してください。 @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021)</p>				

ツイートアクティビティを表示

BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	798	17	2.1%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月24日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1463655808989139207) チャンネル01：第17回若手奨励賞招待講演 チャンネル02：1S1 Symposium Japan-US symposium on cytoskeletal motor proteins and their associated proteins チャンネル03：1S2 シンポジウム 共催：学術変革領域研究(A)「分子サイバネティクス」ケミカルAIを創る分子システム工学の黎明</p>				

ツイートアクティビティを表示

BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	788	19	2.4%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月24日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1463346387085500417) なお、スタンプラリーはBPセミナーでも行われます。募集は企業ごとなので、一人で多くの企業に応募すると、それだけ当選確率が上がります。周りの人も誘い合わせの上、多数応募してください。</p>				

ツイートアクティビティを表示

BSJ 2021	(https://twitter.com/59bsj2021)	766	17	2.2%
<p>第59回 日本生物物理学会年会 (BSJ2021) @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021) - 11月25日 (https://twitter.com/59bsj2021/status/1464011773183291400) 第59回生物物理学会年会の2日目です！みなさまのご参加を心よりお待ちしております。午前のセッションは9時スタートです。 また、本日19時から、オンライン懇親会があります。お酒やお茶などを片手に、ぜひお気軽にご参加下さい。 @59bsj2021 (https://twitter.com/59bsj2021)</p>				

ツイートアクティビティを表示

第59回日本生物物理学会年会アルバイト学生ご推薦の依頼

大変お世話になっております。年会運営を手伝う学生アルバイトを募集いたします。
年会実行委員の先生方には、学生の推薦をお願いいたします。今回募集しています
のは、11月25～27日開催の学会本体の運営および、11月23日に開催
されます生物物理ワークショップの2種類となります。

① 年会本体の運営

勤務日： 2021年 11月25(木)～27(土)日

※11月19日（予定）に業務説明会をオンラインにて行います。

業務： Zoomのチャンネルホスト、発表ビデオ放映の管理など。

時給： 1500 円

※午前・午後通しての勤務の場合はお弁当を支給いたします。業務説明会についても支給します。

募集人数： 約20名程度

② 生物物理ワークショップの運営

勤務日： 2021年 11月23日（火）午後

※11月第一週（予定）に業務説明会をオンラインにて行います。

業務： 生物物理ワークショップ(以下URL)での高校生グループディスカッションのファシリテータなど。

(<https://www2.aeplan.co.jp/bsj2021/workshop/index.html>)

時給： 1700 円

※業務説明会についても支給します。

募集人数： 約6名

ご推薦いただける各研究室所属の学生（学部4年生、院生）について、以下の1～3の情報を所定のExcelファイルに入力していただき、柴田までお送りください。

1. 氏名、学年
 2. メールアドレス、電話番号
 3. 希望業務：A. 年会本体 or B. ワークショップ
- A. 年会全体の業務を希望される場合、以下の日時の参加可否

- 25日
 - ① 午前から1日（弁当支給。8:30集合、19:00まで（片付け含む））
 - ② 午後から半日（弁当無し。13:30集合、16:00まで）。
 - ③ 午後から半日（弁当無し。13:30集合、19:00まで）。
- 26日
 - ① 午前から1日（弁当支給。8:30集合、19:00まで（片付け含む））
 - ② 午後から半日（弁当無し。13:30集合、18:30まで）。
- 27日
 - ① 午前から1日（弁当支給。8:30集合、16:00まで（片付け含む））
 - ② 午後から半日（弁当無し。13:30集合、16:00まで）。

B. ワークショップファシリテータを希望される場合、担当を希望する分野
西口大貴先生、柳澤実穂先生、白井剛先生

送付先：shibata@m.tohoku.ac.jp

応募締め切り：2021年 10 月 29 日（金）

- ・定員に到達次第締め切らせていただく場合がありますので、ご了承ください。
- ・年会全体のアルバイトに関して、各応募枠には定員がありますので、特定の日に希望が集中した場合、ご希望に添えない場合がありますが、ご容赦ください。
- ・年会全体のアルバイトに関して、1日や半日からの応募で構いませんが、研究室や応募者の間のバランスに配慮しつつ、円滑な運営のため複数日行える方を優先して採用する場合がありますので、ご注意ください。
- ・お預かりした個人情報、本年会運営にのみ利用し、その他の利用は一切いたしません。

その他問い合わせ先：

第59回日本生物物理学会年会（株式会社エー・イー企画内）
Tel：06-6350-7163 **E-Mail：**jbp2019@aeplan.co.jp

添付 15-2：アルバイト学生情報

[illegible]